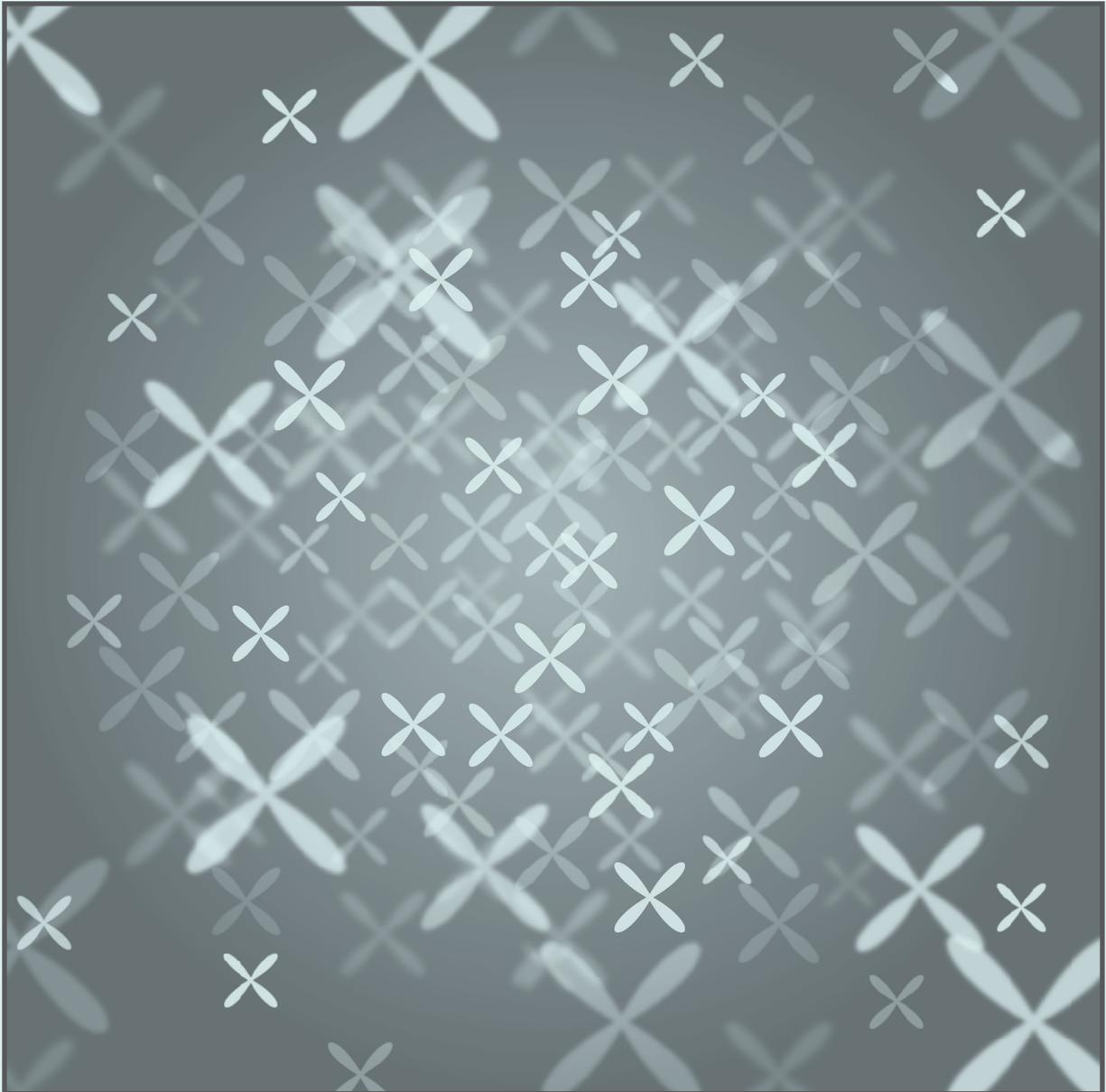

2012年度

シラバス

フランス語学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

—— 総 合 目 次 ——

シラバスの見方	-----	2
2008 年度以降入学者用目次	-----	3
2003～2007 年度入学者用目次	-----	6
外国語学部共通科目（2003 年度以降入学者用）	-----	9
担当者別授業内容	-----	11

シラバスの見方

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを確認してください。

目次の科目は学則別表と同じ順序で掲載しています。

※入学年度によっては学則別表とシラバスの順序が一致していない場合があります。

科目名とページ番号をよく確認してください。

②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、その科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部 養：国際教養学部

独：ドイツ語学科

英：英語学科

仏：フランス語学科

交：交流文化学科

言：言語文化学科

全：フランス語学科以外の全学部学科

経：経済学部

済：経済学科

営：経営学科

法：法学部

律：法律学科

国：国際関係法学科

総：総合政策学科

2. シラバスページの見方(右図参照)

①入学年度

09年度以降……2009年度以降入学者

08年度以降……2008年度以降入学者

07年度以前……2003～2007年度入学者

06～07年度……2006～2007年度入学者

②入学年度に対応した科目名

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。

授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤授業で使用するテキスト、参考文献

⑥評価方法

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
春学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

①	②	担当者
講義目的、講義概要	授業計画	
③	④	
秋学期		
テキスト、参考文献	評価方法	
⑤	⑥	

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。

必ず「講義目的、講義概要」の欄(③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

科目の中には定員制のものがあります。詳細は『授業時間割表』を参照してください。

フランス語学科 授業科目(2008年度以降入学者用 目次)

学科基礎科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ	
フランス語Ⅰ(文法)	授業時間割表を参照し てください。	春	1	1	全	11	
フランス語Ⅱ(文法)		秋	1	1	全	11	
フランス語Ⅰ(講読)既修者のみ		春	1	1	全	12	
フランス語Ⅱ(講読)既修者のみ		秋	1	1	全	12	
フランス語Ⅰ(総合)		春	1	1	全	13	
フランス語Ⅱ(総合)		秋	1	1	全	13	
フランス語Ⅰ(TP) 既修者のみ		春	1	1	全	14	
フランス語Ⅱ(TP) 既修者のみ		秋	1	1	全	14	
フランス語Ⅰ(会話)未修者のみ		春	1	1	全	15	
フランス語Ⅱ(会話)未修者のみ		秋	1	1	全	15	
フランス語Ⅰ(LL)		春	1	1	全	16	
フランス語Ⅱ(LL)		秋	1	1	全	16	
フランス語Ⅲ(文法)		授業時間割表を参照し てください。	春	1	2	全	17
フランス語Ⅳ(文法)			秋	1	2	全	17
フランス語Ⅲ(講読)	春		1	2	全	18	
フランス語Ⅳ(講読)	秋		1	2	全	18	
フランス語Ⅲ(総合)	春		1	2	全	19	
フランス語Ⅳ(総合)	秋		1	2	全	19	
フランス語Ⅲ(TP) 既修者のみ	春		1	2	全	20	
フランス語Ⅳ(TP) 既修者のみ	秋		1	2	全	20	
フランス語Ⅲ(会話)未修者のみ	春		1	2	全	21	
フランス語Ⅳ(会話)未修者のみ	秋		1	2	全	21	
フランス語Ⅲ(構文)	春	1	2	全	22		
フランス語Ⅳ(構文)	秋	1	2	全	22		

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス芸術文化入門Ⅰ	若森 栄樹	春	木1	2	1		23
フランス芸術文化入門Ⅱ	若森 栄樹	秋	木1	2	1		23
フランス現代社会入門Ⅰ	廣田 愛理	春	水3	2	1		24
フランス現代社会入門Ⅱ	廣田 愛理	秋	水3	2	1		24

学科共通科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語Ⅰ	授業時間割表を参照してください。	春		2	3	全	25
総合フランス語Ⅱ	授業時間割表を参照してください。	秋		2	3	全	25
フランス語文章表現法Ⅰ	C. パジェス	春	月3	2	3		26
フランス語文章表現法Ⅱ	C. パジェス	秋	月3	2	3		26
フランス語文章表現法Ⅰ	Ch. ペリセロ	春	火3	2	3		27
フランス語文章表現法Ⅱ	Ch. ペリセロ	秋	火3	2	3		27
フランス語文章表現法Ⅰ	PH. ヴァネ	春	水2	2	3		28
フランス語文章表現法Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	水2	2	3		28
フランス語文章表現法Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木2	2	3		29
フランス語文章表現法Ⅱ	B. レウルス	秋	金2	2	3		30
フランス語文章表現法Ⅰ	J. ファヴロー	春	金3	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅱ	J. ファヴロー	秋	金3	2	3		31
フランス語文章表現法Ⅰ	小石 悟	春	火2	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅱ	小石 悟	秋	火2	2	3		32
フランス語文章表現法Ⅰ	筒井 伸保	春	水1	2	3		33
フランス語文章表現法Ⅱ	筒井 伸保	秋	水1	2	3		33

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語会話Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	火1	2	3		34
フランス語会話Ⅰ	M. P. ミュノーズ	春	火3	2	3		35
フランス語会話Ⅱ	M. P. ミュノーズ	秋	火3	2	3		35
フランス語会話Ⅱ	B. レウルス	秋	金1	2	3		36
フランス語会話Ⅰ	J. ファヴロー	春	金2	2	3		37
フランス語会話Ⅱ	J. ファヴロー	秋	金2	2	3		37
ビジネスフランス語Ⅰ	C. パジェス	春	月2	2	3		38
ビジネスフランス語Ⅱ	C. パジェス	秋	月2	2	3		38
上級フランス語Ⅰ	井上 美穂	春	木2	2	3		39
上級フランス語Ⅱ	井上 美穂	秋	木2	2	3		39
フランス語圏事情Ⅰ	休講			2	2		
フランス語圏事情Ⅱ	休講			2	2		

学科専門科目

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学論Ⅰ	田中 善英	春	火1	2	2		40
フランス語学論Ⅱ	田中 善英	秋	火1	2	2		40
フランス語文章理論Ⅰ	小石 悟	春	水1	2	3		41
フランス語文章理論Ⅱ	小石 悟	秋	水1	2	3		41
フランス語言語教育論Ⅰ	中村 公子	春	水1	2	2		42
フランス語言語教育論Ⅱ	中村 公子	秋	水1	2	2		42
フランス語コミュニケーション各論Ⅰ	古川 直世	春	火3	2	3		43
フランス語コミュニケーション各論Ⅱ	古川 直世	秋	火3	2	3		43
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	PH. ヴァネ	春	月2	2	3		44
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	月2	2	3		44
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	中村 公子	春	火2	2	3		45
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	中村 公子	秋	火2	2	3		45
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	田中 善英	春	水1	2	3		46
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	田中 善英	秋	水1	2	3		46
フランス語コミュニケーション講読Ⅰ	小石 悟	春	木3	2	3		47
フランス語コミュニケーション講読Ⅱ	小石 悟	秋	木3	2	3		47
フランスの美術Ⅱ	阿部 明日香	秋	火2	2	2	交	48
フランスの音楽Ⅰ	松橋 麻利	春	木3	2	2	交	49
フランスの音楽Ⅱ	松橋 麻利	秋	木3	2	2	交	49
フランスの舞台芸術Ⅰ	江花 輝昭	春	水2	2	2	交	50
フランスの舞台芸術Ⅱ	江花 輝昭	秋	水2	2	3		50
フランス文学史Ⅰ	田村 毅	春	水2	2	3		51
フランス文学史Ⅱ	田村 毅	秋	水2	2	2		51
フランスの文学Ⅰ	福田 美雪	春	木3	2	2		52
フランスの文学Ⅱ	福田 美雪	秋	木3	2	3		52
フランス芸術文化各論Ⅰ	田村 毅	春	月3	2	3		53
フランス芸術文化各論Ⅱ	田村 毅	秋	月3	2	3		53
フランス芸術文化各論Ⅰ	谷口 亜沙子	春	金3	2	3		54
フランス芸術文化各論Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	金3	2	3		54
フランス芸術文化講読Ⅰ	福田 美雪	春	月2	2	3		55
フランス芸術文化講読Ⅱ	福田 美雪	秋	月2	2	3		55
フランス芸術文化講読Ⅰ	江花 輝昭	春	火2	2	3		56
フランス芸術文化講読Ⅱ	江花 輝昭	秋	火2	2	3		56
フランス芸術文化講読Ⅰ	筒井 伸保	春	火3	2	3		57
フランス芸術文化講読Ⅱ	筒井 伸保	秋	火3	2	3		57
フランス芸術文化講読Ⅱ	阿部 明日香	秋	水1	2	3		58
フランス芸術文化講読Ⅰ	田村 毅	春	水4	2	3		59
フランス芸術文化講読Ⅱ	田村 毅	秋	水4	2	3		59
フランス芸術文化講読Ⅰ	M. ミズバヤシ	春	木1	2	3		60
フランス芸術文化講読Ⅰ	谷口 亜沙子	春	金2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅱ	谷口 亜沙子	秋	金2	2	3		61
フランス芸術文化講読Ⅱ	B. レウルス	秋	金3	2	3		62

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス地域論Ⅰ	鈴木 隆	春	火4	2	3		63
フランス地域論Ⅱ	鈴木 隆	秋	火4	2	3		63
フランスの歴史Ⅰ	藤田 朋久	春	火2	2	2		64
フランスの歴史Ⅱ	藤田 朋久	秋	火2	2	2		64
フランスの政治経済Ⅰ	尾玉 剛士	春	月2	2	2	交	65
フランスの政治経済Ⅱ	尾玉 剛士	秋	月2	2	2	交	65
フランスの政治経済Ⅰ	廣田 愛理	春	水1	2	2	交	66
フランスの政治経済Ⅱ	廣田 愛理	秋	水1	2	2	交	66
フランス現代思想Ⅰ	若森 栄樹	春	水2	2	3		67
フランス現代思想Ⅱ	若森 栄樹	秋	水2	2	3		67
現代フランス論Ⅰ	尾玉 剛士	春	月3	2	2		68
現代フランス論Ⅱ	尾玉 剛士	秋	月3	2	2		68
フランス現代社会各論Ⅰ	PH. ヴァネ	春	火2	2	3		69
フランス現代社会各論Ⅱ	PH. ヴァネ	秋	火2	2	3		69
フランス現代社会講読Ⅰ	竹内 久雄	春	月3	2	3		70
フランス現代社会講読Ⅱ	竹内 久雄	秋	月3	2	3		70
フランス現代社会講読Ⅰ	鈴木 隆	春	水1	2	3		71
フランス現代社会講読Ⅱ	鈴木 隆	秋	水1	2	3		71
フランス現代社会講読Ⅰ	藤田 朋久	春	水2	2	3		72
フランス現代社会講読Ⅱ	藤田 朋久	秋	水2	2	3		72
フランス現代社会講読Ⅰ	廣田 愛理	春	木1	2	3		73
フランス現代社会講読Ⅱ	廣田 愛理	秋	木1	2	3		73
フランス現代社会講読Ⅰ	若森 栄樹	春	木3	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅱ	若森 栄樹	秋	木3	2	3		74
フランス現代社会講読Ⅰ	M. デルヴロワ	春	金2	2	3		75
フランス現代社会講読Ⅱ	M. デルヴロワ	秋	金2	2	3		75

交流文化論(09年度以降入学者)

開講科目名称	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
交流文化論(サステイナブル・ツーリズム論)	北野 収	春	月3	2	2	交・養 経・法	77
交流文化論(旅行・宿泊産業論)	遠藤 充信	春	火4	2	2	交・養 経・法	78
交流文化論(メディア・ライティング論)	横村 出	春	水4	2	2	交・養 経・法	79
交流文化論(航空産業論)	山路 顕	春	木2	2	2	交・養 経・法	80
交流文化論(開発文化論)	北野 収	春	金2	2	2	交・養 経・法	81
交流文化論(食の文化論)	北野 収	春	金3	2	2	交・養 経・法	82
交流文化論(ツーリズム人類学)	須永 和博	春	金5	2	2	交・養 経・法	83
交流文化論(ツーリズム文化論)	遠藤 充信	秋	火4	2	2	交・養 経・法	84
交流文化論(国際会議・イベント事業論)	遠藤 充信	秋	火5	2	2	交・養 経・法	85
交流文化論(ツーリズム政策論)	山路 顕	秋	火5	2	2	交・養 経・法	86
交流文化論(ツーリズム・マネジメント論)	山路 顕	秋	木2	2	2	交・養 経・法	87
交流文化論(表象文化論)	高橋 雄一郎	秋	木4	2	2	交・養 経・法	88
交流文化論(ツーリズム・メディア論)	高橋 利男	秋	金1	2	2	交・養 経・法	89
交流文化論(市民参加のまちづくり論)	北野 収	秋	金2	2	2	交・養 経・法	90
交流文化論(トランスナショナル社会学)	北野 収	秋	金3	2	2	交・養 経・法	91
交流文化論(オルタナティブ・ツーリズム論)	須永 和博	秋	金5	2	2	交・養 経・法	92

フランス語学科 授業科目 (2003～2007年度入学者用 目次)

学科基礎科目

開講科目名称	担当者/曜時	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語Ⅰa・b(文法)	授業時間割表を参照して ください。	春・秋	1	1	全	11
フランス語Ⅰa・b(講読) 既修者のみ		春・秋	1	1	全	12
フランス語Ⅰa・b(総合)		春・秋	1	1	全	13
フランス語Ⅰa・b(会話)未修者のみ		春・秋	1	1	全	15
フランス語Ⅰa・b(LL)		春・秋	1	1	全	16
フランス語Ⅱa・b(文法)		春・秋	1	2	全	17
フランス語Ⅱa・b(講読)		春・秋	1	2	全	18
フランス語Ⅱa・b(総合)		春・秋	1	2	全	19
フランス語Ⅱa・b(会話)未修者のみ		春・秋	1	2	全	21
フランス語Ⅱa・b(文章表現)		春・秋	1	2	全	22

学科共通科目

開講科目名称	担当者/曜時	開講 学期	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合フランス語a	授業時間割表を参照してください。	春	2	3	全	25
総合フランス語b	授業時間割表を参照してください。	秋	2	3	全	25
フランス語文章表現法a	C. パジエス	春	月3	2	3	26
フランス語文章表現法b	C. パジエス	秋	月3	2	3	26
フランス語文章表現法a	Ch. ペリセロ	春	火3	2	3	27
フランス語文章表現法b	Ch. ペリセロ	秋	火3	2	3	27
フランス語文章表現法a	PH. ヴァネ	春	水2	2	3	28
フランス語文章表現法b	PH. ヴァネ	秋	水2	2	3	28
フランス語文章表現法a	M. ミズバヤシ	春	木2	2	3	29
フランス語文章表現法b	B. レウルス	秋	金2	2	3	30
フランス語文章表現法a	J. ファヴロー	春	金3	2	3	31
フランス語文章表現法b	J. ファヴロー	秋	金3	2	3	31
和文仏訳a	小石 悟	春	火2	2	3	32
和文仏訳b	小石 悟	秋	火2	2	3	32
和文仏訳a	筒井 伸保	春	水1	2	3	33
和文仏訳b	筒井 伸保	秋	水1	2	3	33
フランス語会話a	M. ミズバヤシ	春	火1	2	3	34
フランス語会話a	M. P. ミュノーズ	春	火3	2	3	35
フランス語会話b	M. P. ミュノーズ	秋	火3	2	3	35
フランス語会話b	B. レウルス	秋	金1	2	3	36
フランス語会話a	J. ファヴロー	春	金2	2	3	37
フランス語会話b	J. ファヴロー	秋	金2	2	3	37
時事フランス語a	井上 美穂	春	木2	2	3	39
時事フランス語b	井上 美穂	秋	木2	2	3	39
商業フランス語a	C. パジエス	春	月2	2	3	38
商業フランス語b	C. パジエス	秋	月2	2	3	38

学科専門科目

開講科目名称	担当者/曜時	開講 学期		単 位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス語学概論a	田中 善英	春	火1	2	3		40
フランス語学概論b	田中 善英	秋	火1	2	3		40
フランス文学概論a	若森 栄樹	春	木1	2	1		23
フランス文学概論b	若森 栄樹	秋	木1	2	1		23
フランス語史a	休講						
フランス語史b	休講						
フランス文学史a	田村 毅	春	水2	2	2		51
フランス文学史b	田村 毅	秋	水2	2	2		51
フランス語学各論a	古川 直世	春	火3	2	3		43
フランス語学各論b	古川 直世	秋	火3	2	3		43
フランス文学各論a	谷口 亜沙子	春	金3	2	3		54
フランス文学各論b	谷口 亜沙子	秋	金3	2	3		54
フランス文学各論a	田村 毅	春	月3	2	3		53
フランス文学各論b	田村 毅	秋	月3	2	3		53
フランス文学各論a	福田 美雪	春	木3	2	3		52
フランス文学各論b	福田 美雪	秋	木3	2	3		52
フランス語学講読a	中村 公子	春	火2	2	3		45
フランス語学講読b	中村 公子	秋	火2	2	3		45
フランス語学講読a	PH. ヴァネ	春	月2	2	3		44
フランス語学講読b	PH. ヴァネ	秋	月2	2	3		44
フランス語学講読a	田中 善英	春	水1	2	3		46
フランス語学講読b	田中 善英	秋	水1	2	3		46
フランス語学講読a	小石 悟	春	木3	2	3		47
フランス語学講読b	小石 悟	秋	木3	2	3		47
フランス文学講読a	江花 輝昭	春	火2	2	3		56
フランス文学講読b	江花 輝昭	秋	火2	2	3		56
フランス文学講読a	筒井 伸保	春	火3	2	3		57
フランス文学講読b	筒井 伸保	秋	火3	2	3		57
フランス文学講読a	谷口 亜沙子	春	金2	2	3		61
フランス文学講読b	谷口 亜沙子	秋	金2	2	3		61
フランス文学講読b	B. レウルス	秋	金3	2	3		62
フランス文学講読a	福田 美雪	春	月2	2	3		55
フランス文学講読b	福田 美雪	秋	月2	2	3		55
フランス文学講読b	阿部 明日香	秋	水1	2	3		58
フランス文学講読a	田村 毅	春	水4	2	3		59
フランス文学講読b	田村 毅	秋	水4	2	3		59
フランス文学講読a	M. ミズバヤシ	春	木1	2	1		60
フランス文化・社会概論a	廣田 愛理	春	水3	2	1		24
フランス文化・社会概論b	廣田 愛理	秋	水3	2	2		24
フランスの地誌a	鈴木 隆	春	火4	2	2		63
フランスの地誌b	鈴木 隆	秋	火4	2	2		63
フランスの歴史a	藤田 朋久	春	火2	2	2		64
フランスの歴史b	藤田 朋久	秋	火2	2	2		64
フランスの思想a	若森 栄樹	春	水2	2	2		67
フランスの思想b	若森 栄樹	秋	水2	2	2		67
フランスの美術b	阿部 明日香	秋	火2	2	2		48
フランスの音楽a	松橋 麻利	春	木3	2	2		49
フランスの音楽b	松橋 麻利	秋	木3	2	2		49
フランスの演劇a	江花 輝昭	春	水2	2	2		50
フランスの演劇b	江花 輝昭	秋	水2	2	2		50
フランスの政治a	廣田 愛理	春	水1	2	2		66
フランスの政治b	廣田 愛理	秋	水1	2	2		66
フランスの経済a	尾玉 剛士	春	月2	2	2		65
フランスの経済b	尾玉 剛士	秋	月2	2	2		65

開講科目名称	担当者/曜時	開講 学期		単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
フランス文化・社会各論a	PH. ヴァネ	春	火2	2	3		69
フランス文化・社会各論b	PH. ヴァネ	秋	火2	2	3		69
フランス文化・社会講読a	M. デルヴロワ	春	金2	2	3		75
フランス文化・社会講読b	M. デルヴロワ	秋	金2	2	3		75
フランス文化・社会講読a	竹内 久雄	春	月3	2	3		70
フランス文化・社会講読b	竹内 久雄	秋	月3	2	3		70
フランス文化・社会講読a	鈴木 隆	春	水1	2	3		71
フランス文化・社会講読b	鈴木 隆	秋	水1	2	3		71
フランス文化・社会講読a	藤田 朋久	春	水2	2	3		72
フランス文化・社会講読b	藤田 朋久	秋	水2	2	3		72
フランス文化・社会講読a	廣田 愛理	春	木1	2	3		73
フランス文化・社会講読b	廣田 愛理	秋	木1	2	3		73
フランス文化・社会講読a	若森 栄樹	春	木3	2	3		74
フランス文化・社会講読b	若森 栄樹	秋	木3	2	3		74

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講 学期	曜時	単位 数	開始 学年	履修 不可	ページ
総合講座	廣田 愛理	春	水2	2	1	養・経・法	93
総合講座	廣田 愛理	秋	水2	2	1	養・経・法	93
総合講座	谷口 亜沙子	春	水3	2	1	養・経・法	94
総合講座	谷口 亜沙子	秋	水3	2	1	養・経・法	94
情報科学概論a	呉 浩東	春	月2	2	1	養・経・法	95
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						96~98
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中 雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	内田 俊郎	秋	木4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	春	水1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	内田 富男	秋	水1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	木1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	木1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井 満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中 善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						99~102
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	春	水2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	内田 俊郎	春	木2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中 雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山 恵美子	秋	水2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子 憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子 憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田 俊郎	春	木4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中 雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田 俊郎	秋	木3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	春	水3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山 恵美子	秋	水3	2	1	養・経・法	
(言語情報処理1)	羽山 恵	春	木2	2	2	英・養・経・法	103
(言語情報処理1)	吉成 雄一郎	春	金2	2	2	英・養・経・法	104
(言語情報処理2)	羽山 恵	秋	木2	2	2	英・養・経・法	103
(言語情報処理2)	吉成 雄一郎	秋	金2	2	2	英・養・経・法	104
(HTML)情報科学各論	各担当教員						105
(HTML初級)	内田 俊郎	春	木3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子 憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中 雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	内田 俊郎	秋	木2	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子 憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	106
経済原論a	未定(掲示で確認)	春		2		養・経・法	107
経済原論b	未定(掲示で確認)	秋		2		養・経・法	107
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。

※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論 重複履修可否一覧」を参考にしてください。

フランス語学科シラバス

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (文法) フランス語 Ia (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週2回(1コマずつ)、既修クラスは週1回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。</p> <p>教科書購入の際には、自分のクラスの教科書をよく確認したうえで購入してください。</p>		<p>(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで春学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。)</p> <p>冠詞 名詞・形容詞の男性形・女性形と単数・複数 形容詞の位置 所有形容詞 指示形容詞 疑問形容詞 比較級と最上級 直説法現在の動詞の活用 (être, avoir, -er, -ir, 不規則動詞) 否定形と疑問形 否定文中の de 冠詞の縮約 近接未来と近接過去 代名動詞 等 (順不同)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (文法) フランス語 Ib (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>(クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで秋学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。)</p> <p>直説法複合過去・半過去・大過去 直説法単純未来・前未来 命令法 受動態 感嘆文 中性代名詞 人称代名詞 (直接目的、間接目的、強勢形) 関係代名詞 指示代名詞・所有代名詞・疑問代名詞 条件法 話法 (直接話法と間接話法) 接続法 現在分詞とジェロンディフ 使役動詞 (faire と laisser) 等 (順不同)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ia (講読) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としており、1年生では既修クラスのみ履修します。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に担当教員より説明があります。		担当の先生より指示されます。	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ib (講読) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		同上。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (総合) フランス語 Ia (総合)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。この授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Reflets 1</i> を使います。</p> <p>未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。</p> <p>既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。</p> <p>進度や授業方法は担当の先生から最初の授業時に指示があります。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th><i>Champion I</i></th> <th><i>Reflets I</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Unité 0</td><td>Dossier 0</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unité 1</td><td>Dossier 1</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Unité 2</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>Dossier 2</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unité 3</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>Unité 4</td><td>Dossier 3</td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>Bilan 1</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td>Dossier 4</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unité 5</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 0	Dossier 0	2	Unité 1	Dossier 1	3			4	Unité 2		5		Dossier 2	6	Unité 3		7			8	Unité 4	Dossier 3	9			10	Bilan 1		11		Dossier 4	12	Unité 5		13			14	まとめ	まとめ	15		
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	Unité 0	Dossier 0																																																	
2	Unité 1	Dossier 1																																																	
3																																																			
4	Unité 2																																																		
5		Dossier 2																																																	
6	Unité 3																																																		
7																																																			
8	Unité 4	Dossier 3																																																	
9																																																			
10	Bilan 1																																																		
11		Dossier 4																																																	
12	Unité 5																																																		
13																																																			
14	まとめ	まとめ																																																	
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (総合) フランス語 Ib (総合)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
同上。		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th><i>Champion I</i></th> <th><i>Reflets I</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 5</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>Unité 7</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>Unité 8</td><td>Dossier 6</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>Bilan 2</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 7</td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>Unité 10</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 6	Dossier 5	2			3	Unité 7		4			5	Unité 8	Dossier 6	6			7	Bilan 2		8			9	Unité 9	Dossier 7	10			11	Unité 10		12			13	まとめ	まとめ	14			15		
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																																	
1	Unité 6	Dossier 5																																																	
2																																																			
3	Unité 7																																																		
4																																																			
5	Unité 8	Dossier 6																																																	
6																																																			
7	Bilan 2																																																		
8																																																			
9	Unité 9	Dossier 7																																																	
10																																																			
11	Unité 10																																																		
12																																																			
13	まとめ	まとめ																																																	
14																																																			
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
同上。		同上。																																																	

08年度以降	フランス語 I (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当教員より指示されます。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	

08年度以降	フランス語 II (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ia (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブ・スピーカーが担当して、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。教科書は、「総合」、「LL」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。		進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ib (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (LL) フランス語 Ia (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1</i> 、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Reflets 1</i> を使用します。どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。授業の進め方については各担当教員から説明があります。		進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i> <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (LL) フランス語 Ib (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (文法) フランス語 IIa (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は初級文法を習得した学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。既修クラス、未修クラスともに週1回の授業です。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員から説明があります。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (文法) フランス語 IIb (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語で書かれた簡単なテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各担当教員から説明があります。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (総合) フランス語 IIa (総合)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i>、既修クラスでは <i>Reflets 1, 2</i> を使用し、未修クラスは日本人教員、既修クラスはネイティブ・スピーカーが授業を担当します。</p> <p>授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。</p> <p>なお、「フランス語 III/IV (総合)」につづく、3年生の「総合フランス語 I/II」のクラスは、12月に実施予定のTCFのスコアによって編成します。</p>		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 1</i></td> <td><i>Reflets 1</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 11</td> <td>Dossier 8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unité 12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>Dossier 9</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Bilan 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unité 13</td> <td>Dossier 10</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unité 14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>Dossier 11</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unité 15</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>まとめ</td> <td>Dossier 12</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>	1	Unité 11	Dossier 8	2			3	Unité 12		4		Dossier 9	5	Bilan 3		6			7	Unité 13	Dossier 10	8			9	Unité 14		10		Dossier 11	11	Unité 15		12			13	まとめ	Dossier 12	14			15		
	<i>Champion 1</i>	<i>Reflets 1</i>																																																	
1	Unité 11	Dossier 8																																																	
2																																																			
3	Unité 12																																																		
4		Dossier 9																																																	
5	Bilan 3																																																		
6																																																			
7	Unité 13	Dossier 10																																																	
8																																																			
9	Unité 14																																																		
10		Dossier 11																																																	
11	Unité 15																																																		
12																																																			
13	まとめ	Dossier 12																																																	
14																																																			
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (総合) フランス語 IIb (総合)	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
同上。		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 1 & 2</i></td> <td><i>Reflets 2</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 16</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>Dossier 1</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Bilan 6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td><i>Champion 2</i> Unité 1</td> <td>Dossier 2</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unité 2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td>Dossier 3</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unité 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Bilan 1</td> <td>Dossier 4</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unité 4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion 1 & 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 16		2		Dossier 1	3	Bilan 6		4			5	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2	6			7	Unité 2		8		Dossier 3	9	Unité 3		10			11	Bilan 1	Dossier 4	12	Unité 4		13			14	まとめ	まとめ	15		
	<i>Champion 1 & 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 16																																																		
2		Dossier 1																																																	
3	Bilan 6																																																		
4																																																			
5	<i>Champion 2</i> Unité 1	Dossier 2																																																	
6																																																			
7	Unité 2																																																		
8		Dossier 3																																																	
9	Unité 3																																																		
10																																																			
11	Bilan 1	Dossier 4																																																	
12	Unité 4																																																		
13																																																			
14	まとめ	まとめ																																																	
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
未修クラス： <i>Champion 1, 2</i> 既修クラス： <i>Reflets 2</i>		同上。																																																	

08年度以降	フランス語 III (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。</p> <p>教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当教員より指示されます。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	

08年度以降	フランス語 IV (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIa (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブスピーカーが担当し、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。</p> <p>教科書は、「総合」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p>進度は「フランス語 III (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1, 2</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIa (会話)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>進度は「フランス語 IV (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 06～07年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。</p> <p>必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。</p> <p>具体的な授業の進め方等については各担当教員から最初に説明があります。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 06～07年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門Ⅰ フランス文学概論 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの芸術・文化に関する基礎知識を習得し、「フランス芸術文化」部門の専門科目への導入を目的とした授業である。そのため、フランスの芸術・文化について、広範囲にわたるテーマを概括的に講義する。</p> <p>「フランス芸術文化入門Ⅰ」(春学期)では、特に文学にテーマを絞り、中世から20世紀までのフランス文学を概観する。1年生を主な対象者とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを活用し、フランス文学に親しむ機会を提供したい。</p> <p>フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で受講してください。</p> <p>「この科目はフランス語学科の学科基礎科目になりますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。」</p>		<p>第1回：ガイダンス (若森栄樹)</p> <p>第2回：フランスの歴史1 (藤田朋久)</p> <p>第3回：フランスの歴史2 (藤田朋久)</p> <p>第4回：フランス文学の流れ (谷口亜沙子)</p> <p>第5回：20世紀の文学1 (谷口亜沙子)</p> <p>第6回：20世紀の文学2 (谷口亜沙子)</p> <p>第7回：20世紀の文学3 (谷口亜沙子)</p> <p>第8回：19世紀の文学1 (伊藤幸次)</p> <p>第9回：19世紀の文学2 (伊藤幸次)</p> <p>第10回：19世紀の文学3 (伊藤幸次)</p> <p>第11回：大衆文学 (筒井伸保)</p> <p>第12回：大衆文学 (筒井伸保)</p> <p>第13回：大衆文学 (筒井伸保)</p> <p>第14回：まとめ (若森栄樹)</p> <p>第15回：まとめ (若森栄樹)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントなど。 参考文献は各教員から授業内に指示される。</p>		<p>学期末試験に平常点(出席)を加味する。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化入門Ⅱ フランス文学概論 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的は上記参照。</p> <p>「フランス芸術文化入門Ⅱ」(秋学期)では、文学以外の芸術文化一般を取り上げ、各分野ごとに入門的な講義を行う。1年生を主な対象者とするので、できるだけ映像資料や音声資料を活用し、分かりやすくフランス芸術文化の全体像を提示する。</p> <p>フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で受講してください。</p> <p>「この科目はフランス語学科の学科基礎科目になりますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。」</p>		<p>第1回：ガイダンス (若森栄樹)</p> <p>第2回：近現代のファッション1 (福田美雪)</p> <p>第3回：近現代のファッション2 (福田美雪)</p> <p>第4回：近現代のファッション3 (福田美雪)</p> <p>第5回：フランスの音楽1 (松橋麻利)</p> <p>第6回：フランスの音楽2 (松橋麻利)</p> <p>第7回：フランスの音楽3 (松橋麻利)</p> <p>第8回：フランス思想入門1 (若森栄樹)</p> <p>第9回：フランス思想入門2 (若森栄樹)</p> <p>第10回：フランス思想入門3 (若森栄樹)</p> <p>第11回：フランスの祝祭1 (小石悟)</p> <p>第12回：フランスの祝祭2 (小石悟)</p> <p>第13回：歌に見るフランス文化 (若森栄樹)</p> <p>第14回：文化としての演劇 (田村毅)</p> <p>第15回：まとめ (若森栄樹)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはプリントなど。 参考文献は各教員から授業内に指示される。</p>		<p>学期末試験に平常点(出席)を加味する。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門 I フランス文化・社会概論 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代フランス社会を理解するために必要な基礎知識の習得を目的とする講義です。複数の教員によるオムニバス形式で授業を行います。</p> <p>なお、この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する場合には、以上のことを了承した上で履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (廣田愛理) 2. フランスの政治 (廣田愛理) 3. フランスの地域 1 (鈴木隆) 4. フランスの地域 2 (鈴木隆) 5. フランスの地域 3 (鈴木隆) 6. フランスの地域 4 (鈴木隆) 7. フランス語と世界 1 (田中善英) 8. フランス語と世界 2 (田中善英) 9. フランス語と世界 3 (田中善英) 10. フランスの教育と生活 1 (中村公子) 11. フランスの教育と生活 2 (中村公子) 12. フランスの教育と生活 3 (中村公子) 13. フランスの地方生活 (水林ミシェル) 14-15. まとめ (廣田愛理) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。参考文献は必要に応じて教室で指示します。		平常点と期末試験	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門 II フランス文化・社会概論 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代フランス社会を理解するために必要な基礎知識の習得を目的とする講義です。複数の教員によるオムニバス形式で授業を行います。</p> <p>なお、この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭において行われます。フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する場合には、以上のことを了承した上で履修してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (廣田愛理) 2. フランスとヨーロッパ 1 (フィリップ・ヴァネ) 3. フランスとヨーロッパ 2 (フィリップ・ヴァネ) 4. フランスとヨーロッパ 3 (フィリップ・ヴァネ) 5. フランスの食文化 1 (江花輝昭) 6. フランスの食文化 2 (江花輝昭) 7. フランスの食文化 3 (江花輝昭) 8. フランスの経済 (廣田愛理) 9. フランス現代史 1 (廣田愛理) 10. フランス現代史 2 (廣田愛理) 11. パリの風景と文学 (福田美雪) 12. フランスの美術政策 1 (阿部明日香) 13. フランスの美術政策 2 (阿部明日香) 14. フランスの美術政策 3 (阿部明日香) 15. まとめ (廣田愛理) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜プリントを配布。参考文献は必要に応じて教室で指示します。		平常点と期末試験	

08年度以降 07年度以前	総合フランス語 I 総合フランス語 a	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Reflets 2</i> à partir du dossier 5 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion 2</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p> <p><u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p>		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 2</i></td> <td><i>Reflets 2</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 5</td> <td>Dossier 5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unité 6</td> <td>Dossier 6</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Bilan 2</td> <td>Dossier 7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unité 7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>Dossier 8</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unité 8</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 7 (<i>Champion</i>).</p>			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 5	Dossier 5	2			3			4	Unité 6	Dossier 6	5			6			7	Bilan 2	Dossier 7	8	Unité 7		9			10		Dossier 8	11	Unité 8		12			13		Révision	14			15		
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 5	Dossier 5																																																	
2																																																			
3																																																			
4	Unité 6	Dossier 6																																																	
5																																																			
6																																																			
7	Bilan 2	Dossier 7																																																	
8	Unité 7																																																		
9																																																			
10		Dossier 8																																																	
11	Unité 8																																																		
12																																																			
13		Révision																																																	
14																																																			
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																																	

08年度以降 07年度以前	総合フランス語 II 総合フランス語 b	担当者	各担当教員																																																
講義目的、講義概要		授業計画																																																	
<p>Voir les explications du premier semestre.</p>		<table border="0"> <tr> <td></td> <td><i>Champion 2</i></td> <td><i>Reflets 2</i></td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Unité 9</td> <td>Dossier 9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Bilan 3</td> <td>Dossier 10</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unité 10</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>Dossier 11</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unité 11</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>Dossier 12</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unité 12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td>Révision</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Bilan 4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 10 ou 11 (<i>Champion</i>).</p>			<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>	1	Unité 9	Dossier 9	2			3			4	Bilan 3	Dossier 10	5	Unité 10		6			7		Dossier 11	8	Unité 11		9			10		Dossier 12	11	Unité 12		12			13		Révision	14	Bilan 4		15		
	<i>Champion 2</i>	<i>Reflets 2</i>																																																	
1	Unité 9	Dossier 9																																																	
2																																																			
3																																																			
4	Bilan 3	Dossier 10																																																	
5	Unité 10																																																		
6																																																			
7		Dossier 11																																																	
8	Unité 11																																																		
9																																																			
10		Dossier 12																																																	
11	Unité 12																																																		
12																																																			
13		Révision																																																	
14	Bilan 4																																																		
15																																																			
テキスト、参考文献		評価方法																																																	
<i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD. <i>Reflets 2</i> .		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																																	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, cinéma, cuisine, voyages, société, etc. (30 étudiants maximum)</p> <p>この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・映画・料理・旅行・社会問題など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。 (30名まで)</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 1 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 2 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 3 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 4 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 5 15. Composition finale 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger des courriels, des lettres, des compositions sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, cinéma, cuisine, voyages, société, etc. (30 étudiants maximum)</p> <p>この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。手紙の書き方、文章作成をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・映画・料理・旅行・社会問題など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。 (30名まで)</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / programme 2. Introduction du sujet de composition 6 3. Réflexion / explication / rédaction 4. Corrigé et commentaires 5. Introduction du sujet de composition 7 6. Réflexion / explication / rédaction 7. Corrigé et commentaires 8. Introduction du sujet de composition 8 9. Réflexion / explication / rédaction 10. Corrigé et commentaires 11. Introduction du sujet de composition 9 12. Réflexion / explication / rédaction 13. Corrigé et commentaires 14. Introduction du sujet de composition 10 15. Composition finale 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	C h. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Pendant ce premier trimestre nous allons d'abord écrire des dialogues très simples et utiliser pour cela des bandes dessinées.</p> <p>Nous allons ensuite écrire à partir de situations diverses de la vie quotidienne : récit d'un voyage, pages d'un journal intime, etc.</p> <p>Pour finir le trimestre, nous écrirons un blog et dans ce blog vous pourrez décrire par exemple, un bon restaurant que vous connaissez ou un quartier de Tokyo que vous aimez.</p> <p>Ce cours vous permettra d'acquérir une expression écrite plus précise car nous allons revoir certains points de grammaire tels que : le passé composé, l'imparfait, le présent, le subjonctif, les pronoms relatifs, etc.</p>		<p>Mai : dialogues de bandes dessinées</p> <p>Juin : écrits de la vie quotidienne</p> <p>Juillet : création d'un blog</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vous n'aurez pas à acheter de livres. Je vous donnerai des photocopies tous les mardis.		L'évaluation se fait à partir de l'assiduité, des devoirs (Deux devoirs par mois) et d'un examen final en juillet.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	C h. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Le contenu de ce cours est différent de celui du trimestre de printemps mais les exercices sont les mêmes. Si vous avez suivi ce cours au printemps, vous pourrez, par exemple, approfondir vos connaissances en expression écrite et poursuivre votre blog.</p> <p>Ainsi, pendant ce premier trimestre d'automne nous allons d'abord écrire des dialogues très simples et utiliser pour cela des bandes dessinées.</p> <p>Nous allons ensuite écrire à partir de situations diverses de la vie quotidienne : récit d'un voyage, pages d'un journal intime, etc.</p> <p>Pour finir le trimestre, nous écrirons un blog et dans ce blog vous pourrez décrire par exemple, un bon restaurant que vous connaissez ou un quartier de Tokyo que vous aimez.</p> <p>Ce cours vous permettra d'acquérir une expression écrite plus précise car nous allons revoir certains points de grammaire tels que : le passé composé, l'imparfait, le présent, le subjonctif, les pronoms relatifs, etc.</p>		<p>Octobre : dialogues de bandes dessinées</p> <p>Novembre : écrits de la vie quotidienne</p> <p>Décembre: création d'un blog</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Vous n'aurez pas à acheter de livres. Je vous donnerai des photocopies tous les mardis.		L'évaluation se fait à partir de l'assiduité, des devoirs (Deux devoirs par mois) et d'un examen final en janvier.	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>On n'a jamais autant écrit depuis l'arrivée des téléphones portables et de l'internet. L'écriture est un moyen de communication et aussi un moyen d'approfondir ses propres idées et sentiments. Elle fait appel à des règles de logique que nous essaierons de découvrir :</p> <p>I. <u>En classe</u> : 1) Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition. 2) Travail sur le plan. 3) Comment écrire une introduction et une conclusion.</p> <p>II. <u>À la maison</u> : 1) chaque semaine, rédaction de messages très courts de type Twitter. 2) Une fois par semestre, chaque étudiant écrit librement une composition. Le devoir est rendu 3 fois. Les deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.</p>		<p>1. le 1^{er} semestre consiste en l'étude des articulations logiques.</p> <p>5 Remise du devoir (1^{ère} fois)</p> <p>8 Remise du devoir (2^e fois)</p> <p>14. Remise du devoir (3^e fois)</p> <p>15. Corrigés définitifs et conclusion.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2012.		Le grand devoir semestriel est noté. Participation en français au réseau social Twitter. 人数超過の場合には初回の授業で選考を行うことがある	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir ci-dessus la présentation du cours. Suite du premier semestre, en particulier étude sur les questions de plan.</p>		<p>1. le 2^e semestre consiste en l'étude de la structure logique des textes</p> <p>5 Remise du devoir (1^{ère} fois)</p> <p>8 Remise du devoir (2^e fois)</p> <p>14 Remise du devoir (3^e fois)</p> <p>15. Corrigés définitifs et conclusions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2012.		Le grand devoir semestriel est noté. Participation en français au réseau social Twitter. 人数超過の場合には初回の授業で選考を行うことがある	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif: Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p>Contenu : Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

2012年(秋)	フランス語文書表現法 II	担当者	B.P. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『今どんなことが話題になっているか知りたい！だけどフランス語で新聞を読んだりテレビ番組を見たりするには vocabulary が足りない。語彙力を高めるだけではなく、話せるようになりたい、ちょっと書いてみたい、聞く練習もしたい・・・そんな授業があれば・・・』</p> <p>授業は、フランス語の広告、ポスター、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。</p> <p>Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive : observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical.</p> <p>参考文献 : 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1・ フランス生活暦：年中行事・祭り・イベント（ハロウィーンとケルト文化・ボジョレーヌーヴォー・ノエル） 2・ フランスにおける日本文化：和食（スシ・ワカメ・シイタケ）アニメ・ブランド 3・ 食べるたのしみ：美食の国とスローフード 4・ 東京にある小さなフランス：カフェ・グルメ・イベント 5・ バカンスの過ごし方 6・ 恋愛観と結婚観：結婚とは過去のもの？（離婚・婚外の増加・片親家族） 7・ ブルタニュー地方とケルト文化。ブルタニュー地方とそば文化（クレープ&ガレット） 8・ 世界最大の映画祭：カンヌ国際映画祭 9・ フランス教育制度：大衆化&エリート主義 10・ びっくり先進国フランス！French paradox(1) 11・ びっくり先進国フランス！French paradox(2) 12・ 画家たちの愛したコート・ダジュール 13・ カトリックの伝統と社会の変化 14・ ヨーロッパの中のフランス：l'euro, notre monnaie. 15・ まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「シヴィイ・ラング」 « Civilangue » 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3</p>		<p>授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I フランス語文章表現法 a	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif du cours :</p> <p>Pour le semestre de printemps, l'objectif du cours sera de vous permettre d'acquies les compétences lexicales, grammaticales et rédactionnelles nécessaires à la production d'une grande variété de documents écrits que vous pourriez être amenés à écrire <i>dans la vie réelle</i>, en utilisant un français naturel, varié et adapté au contexte de communication.</p> <p>Déroulement du cours :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Correction des devoirs rendus la semaine précédente - Présentation du sujet et des objectifs de la semaine - Acquisition et réutilisation du lexique de la leçon - Etude des points de grammaire nécessaires au sujet - Présentation du style et de la structure à adopter - Lecture et compréhension d'un document modèle - Rédaction et correction - Explication du devoir à rendre la semaine suivante 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Présentation du cours, évaluation de niveau 2 Se présenter (1) : écrire son profil sur Internet 3 Se présenter (2) : écrire son CV 4 Exprimer ses sentiments : écrire une lettre d'amour 5 Exprimer une opinion (1) : écrire à un journal 6 Exprimer une opinion (2) : écrire un essai 7 Inviter : écrire une lettre d'invitation à une fête 8 Donner des nouvelles : écrire une carte postale 9 Se plaindre : écrire une lettre de réclamation 10 Transmettre des instructions (1) : écrire une recette 11 Transmettre des instructions (2) : écrire des règles 12 Exprimer des regrets : écrire une lettre d'excuses 13 Rapporter des faits : écrire un mini-reportage 14 Synthétiser, reformuler : écrire un résumé 15 Examen final 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire, ainsi que de courts textes modèles. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, devoirs à la maison, examen final	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II フランス語文章表現法 b	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif du cours :</p> <p>Pour le semestre d'automne, on se concentrera davantage sur cet exercice de style particulier et peu familier des Japonais que constitue l'essai argumenté, en essayant de couvrir un large éventail de sujets, afin que chacun puisse exprimer ses idées de la façon la plus libre possible.</p> <p>On insistera tant sur la structure générale (plan, introduction, paragraphes, alinéas, conclusion) que sur les articulations logiques et les outils rhétoriques permettant d'obtenir un texte cohérent et convainquant.</p> <p>Déroulement du cours :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Correction des devoirs, étude d'un corrigé modèle - Présentation de nouveaux outils rédactionnels - Présentation du sujet de la semaine - Acquisition et réutilisation du lexique - Travail collectif de recherche d'idées sur le sujet (chaque élève est invité à réfléchir à l'avance chez lui) - Rédaction et correction - Explication du devoir à rendre la semaine suivante 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Présentation du cours, bases de l'essai argumenté 2 Sujet : Charmes comparés du Japon et de la France 3 Sujet : La solidarité au Japon 4 Sujet : Avantages et inconvénients de la télévision 5 Sujet : Les rapports hommes / femmes 6 Sujet : Quelles énergies pour le monde de demain ? 7 Sujet : Bienfaits et dangers d'Internet 8 Sujet : Le mariage au Japon 9 Sujet : Le Japon, pays traditionnel ou moderne ? 10 Sujet : Peut-on vivre sans téléphone portable ? 11 Sujet : L'image des Français 12 Sujet : L'école au Japon 13 Sujet : Le travail, plaisir ou nécessité ? 14 Sujet : La religion au Japon 15 Examen final 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire distribuées chaque semaine. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, devoirs à la maison, examen final	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I 和文仏訳 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本語のテキストをもとにするが、逐語訳するのではなく、自分の知っている構文を用いて、省略、倒置、言い換えなどを行いながら、自然なフランス語を書けるようになることを目指す。最初は短文から始めて、最終的には一つのテキストを訳せるようになりたいと思います。</p> <p>授業の概要</p> <p>作文が上達するためには、書いたものを直して間違いに気づくしかない。この授業では、各人が書いてきた文をもとに、どうすればもっと良い文なるかを全員で考える。その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身につけるようにする。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：理由を表す文 1</p> <p>第3回：理由を表す文 2</p> <p>第4回：結果を表す文 1</p> <p>第5回：結果を表す文 2</p> <p>第6回：譲歩を表す文 1</p> <p>第7回：譲歩を表す文 2</p> <p>第8回：目的を表す文</p> <p>第9回：仮定を表す文 1</p> <p>第10回：目的を表す文 2</p> <p>第11回：「イタリア人のまっかなほん」と 1</p> <p>第12回：「イタリア人のまっかなほん」と 2</p> <p>第13回：「イタリア人のまっかなほん」と 3</p> <p>第14回：「イタリア人のまっかなほん」と 4</p> <p>第15回：「イタリア人のまっかなほん」と 5</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II 和文仏訳 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：「フランス人のまっかなほん」と 1</p> <p>第3回：「フランス人のまっかなほん」と 2</p> <p>第4回：「フランス人のまっかなほん」と 3</p> <p>第5回：「フランス人のまっかなほん」と 4</p> <p>第6回：「日本人のまっかなほん」と 1</p> <p>第7回：「日本人のまっかなほん」と 2</p> <p>第8回：「日本人のまっかなほん」と 3</p> <p>第9回：「日本人のまっかなほん」と 4</p> <p>第10回：週刊誌記事からの抜粋 1</p> <p>第11回：週刊誌記事からの抜粋 2</p> <p>第12回：週刊誌記事からの抜粋 3</p> <p>第13回：週刊誌記事からの抜粋 4</p> <p>第14回：週刊誌記事からの抜粋 5</p> <p>第15回：週刊誌記事からの抜粋 6</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 I 和文仏訳 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>和文仏訳。1、2年で学習した文法・語彙の知識を活用して、フランス語の文章を作る能力を高める。簡単な単文（主語+動詞の文）から、複文（様々な従属節—時間・理由・目的などを示す副詞節、関係代名詞節などの形容詞節—を伴う文）までの練習を行う。授業はプリントの練習問題の日本語文を仏訳する。履修する学生は自分の試訳を準備し、その試訳を黒板に書いてもらう。毎回ほぼ全員か当たるので予習が必須である。人数制限をする場合があるので、履修を望む学生は必ず1回目の授業に出席すること。</p> <p>昨年度と同一内容なので、昨年度履修した学生は今年度履修しても学習上意味がないので注意すること。</p> <p>和仏辞典についての注意：和仏辞典(電子版を含む)の付録に付いている和仏語彙集や、ポケット版和仏・和仏辞典では足りない。 白水社『現代和仏小辞典』か、旺文社『プチ・ロワイヤル和仏辞典』か、三省堂『コンサイス和仏辞典』を必ず手に入れること(現在品切の白水社『コンコルド和仏辞典』を持っている人はそれでよい)。</p>		<p>1回目：授業の説明。人数過多の場合は受講者制限を行う。 2回目以降プリントに沿って授業を進める。3回の授業で1課分のプリントを終える進度が標準。 3：続き。 4：続き。 5：続き。 6：続き。 7：続き。 8：続き。 9：続き。 10：続き。 11：続き。 12：続き。 13：続き。 14：続き。 15：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		平常点(出席・授業への参加度)と学期末試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス語文章表現法 II 和文仏訳 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上記参照。 春学期未履修者の履修は可。</p>		<p>春学期の続き。プリントに沿って授業を進める。3回の授業で1課分のプリントを終える進度が標準。 1回目：春学期の続き。 2：続き。 3：続き。 4：続き。 5：続き。 6：続き。 7：続き。 8：続き。 9：続き。 10：続き。 11：続き。 12：続き。 13：続き。 14：続き。 15：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif</p> <p>L'acquisition de connaissances et de techniques qui permettront aux étudiants de prendre la parole en français d'une manière aussi décontractée que possible.</p> <p>Contenu</p> <ul style="list-style-type: none"> - Échanger des nouvelles en français - Découverte de la France 		<p>Dans un premier temps nous échangerons les nouvelles de la semaine en petits groupes ce qui nous donnera l'occasion de dire en français ce qui a été important pour nous.</p> <p>Ensuite nous travaillerons à partir d'articles de presse ou bien de nouvelles de la radio française. Ce matériel sera le point de départ de notre cours de conversation dont l'objectif est d'améliorer sa capacité de compréhension et d'expression en français. Ce cours s'adresse aux étudiants qui aiment parler, qui jouissent du plaisir de la conversation aussi bien en français qu'en japonais et qui sont décidés à participer activement à tous les types d'exercices proposés.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies		Je souhaite que les étudiants participent au cours le plus souvent possible. Le contrôle consistera à faire un petit exposé au cours du semestre.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	M. P. ミュノーズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de reviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques.</p> <p>A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront discuter des différents sujets abordés dans les documents.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Présentation – evaluation du niveau des étudiants. 2. La France 3. Discussion 4. L'habitat 5. Discussion 6. La musique 7. Discussion 8. Le travail 9. Discussion 10. L'argent 11. Discussion 12. La télé 13. Discussion 14. Les vacances 15. Discussion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	M. P. ミュノーズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de reviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques.</p> <p>A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront discuter des différents sujets abordés dans les documents.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Révisions 2. Les animaux 3. Discussion 4. Les langues 5. Discussion 6. Le cinéma 7. Discussion 8. Internet 9. Discussion 10. Les superstitions 11. Discussion 12. Les vêtements, la mode 13. Discussion 14. Les bonnes résolutions 15. Discussion 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

2012年(秋)	フランス語会話 II	担当者	B.P. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代のフランス社会から、仕事に対するフランス人の考え方、フランスの家族構成、住んでいる場所・環境、離婚が多い理由等の疑問に答えていく授業です。家族・仕事・教育・休暇といったテーマを、フランス語の広告ポスター、チラシ、テレビのCM、ウェブサイト、雑誌の記事等を通して取り上げていきます。</p> <p>専門用語と重要事項を学習した後、フランスと日本の社会や価値観の相違点を討論します。</p> <p>Notre cours présentera des scènes variées de la vie quotidienne en France. Une première partie sera consacrée à l'étude et à l'appropriation du lexique ; ensuite les activités de communication (dialogues, présentations, jeux de rôle, etc.) seront accompagnées de documents sonores et visuels.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1・ガイドダンス・イントロダクション 2・レストランにて：初めての料理や飲み物に挑戦する 3・レストランにて：誕生日のプレゼント 4・交通機関と旅行：旅行計画 5・音楽祭って何？ 6・生活と環境：パリの Vélib 7・生活と環境：都市景観（日仏比較） 8・学校で習う外国語 9・将来の夢：Erasmus 計画 10・バラ色の人生：5週間の vacances 11・Vacances って何をするの？ 12・さまざまな感情：恋愛観と結婚観 13・子どもの頃（半過去） 14・在日フランス企業 15・まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「場面で学ぶフランス語 II」</p> <p>« En scène II » 三修社 ISBN 978 4 384 23206 6 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3</p>		<p>授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 I フランス語会話 a	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif du cours :</p> <p>Dans ce cours, vous apprendrez à vous exprimer en français sur des thèmes de la vie de tous les jours tout en approfondissant vos connaissances lexicales et grammaticales.</p> <p>Déroulement du cours :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Exposé par 1 ou 2 élèves en fonction du thème du jour - Travail sur un point grammatical précis en fonction des besoins des élèves - Etude d'un document en relation avec le thème du jour - Discussion sur le thème - Remise par le professeur d'une feuille de vocabulaire et d'un document à préparer pour le cours suivant - Remise du texte de l'exposé de la semaine suivante par l'élève concerné 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Présentation du cours, partage des exposés 2 L'université et les études 3 Le monde du travail et les petits boulots 4 L'alimentation et la santé 5 La politesse et les traditions 6 Le mariage et les relations hommes / femmes 7 La religion et la spiritualité 8 La musique, jouée et écoutée 9 La télévision, le théâtre et le cinéma 10 Le sport, regardé et pratiqué 11 La lecture, la littérature, les écrivains 12 Internet et les portables 13 La famille, les amis et les fêtes 14 Les vacances et les loisirs 15 Thème choisi par les élèves 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire, ainsi que des documents à préparer. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, exposé individuel	

08年度以降 07年度以前	フランス語会話 II フランス語会話 b	担当者	J. ファヴロー
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif du cours :</p> <p>Pour le semestre d'automne, chaque leçon s'organisera non plus autour d'un thème général, mais autour d'une question précise, reprenant les thèmes du semestre précédent, et qui donnera lieu à un débat.</p> <p>Déroulement du cours :</p> <ul style="list-style-type: none"> - Exposé par 1 ou 2 élèves sous la forme d'une prise de position au sujet de la question du jour - Travail sur un point grammatical précis en fonction des besoins des élèves - Etude d'un document en relation avec le débat du jour - Débat entre les élèves - Remise d'une feuille de vocabulaire et d'un document à préparer pour le cours suivant - Remise du texte de l'exposé de la semaine suivante par l'élève concerné 		<ol style="list-style-type: none"> 1 Présentation du cours, partage des exposés 2 Le système éducatif actuel est-il satisfaisant ? 3 Les Japonais travaillent-ils trop ? 4 Que devrait-on faire pour vivre plus longtemps ? 5 Toutes les traditions doivent-elles être protégées ? 6 Le mariage est-il une chose nécessaire ? 7 Les Japonais sont-ils un peuple religieux ? 8 La musique devrait-elle être gratuite ? 9 Doit-on interdire aux enfants de regarder la télé ? 10 Doit-on rendre le sport obligatoire pour tous ? 11 Les livres papier ont-ils encore un avenir ? 12 Les nouvelles technologies sont-elles un danger ? 13 Devrait-on interdire l'alcool et le tabac ? 14 Que choisir : les vacances au Japon où à l'étranger ? 15 Débat choisi par les élèves 	
テキスト、参考文献		評価方法	
Pas de manuel, mais des feuilles de vocabulaire, ainsi que des documents à préparer. Dictionnaire requis.		Participation, assiduité, exposé individuel	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 I 商業フランス語 a	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <p>Thèmes étudiés :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / Programme 2. La formation 3. Les diplômes 4. Exploitation / Evaluation 5. Rechercher un emploi 6. Candidature 7. CV 8. Exploitation / Evaluation 9. Les pratiques de recrutement 10. Lettre de motivation 11. Entretien d'embauche 12. Exploitation / Evaluation 13. Les contrats de travail 14. Professions et métiers 15. Exploitation / Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	ビジネスフランス語 II 商業フランス語 b	担当者	C. パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p> <p>*講義内容は必要に応じて変更することがあります。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <p>Thèmes étudiés :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction au cours / Programme 2. Organiser un déplacement 3. Réserver une chambre d'hôtel 4. Réserver un billet d'avion / de train 5. Exploitation / Evaluation 6. Organiser son emploi du temps 7. Prendre contact par téléphone 8. Courrier et courriel 9. Exploitation / Evaluation 10. Passer commande 11. Importer et exporter 12. Exploitation / Evaluation 13. Découvrez l'entreprise 14. Fonctions dans l'entreprise 15. Exploitation / Evaluation 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

08年度以降 07年度以前	上級フランス語 I 時事フランス語 a	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。</p> <p>授業内容は、TCFの対策としても有効だと思われます。</p>		<p>基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2012年のニュースを予測することはできませんので、以下に 2011 年度春学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コートジボワールで大統領選挙が行われる 2. サルコジ大統領、震災直後の訪日 3. ビンラーディン殺害 4. ギリシャ危機 5. カヌヌ映画祭 6. G 8 フランスで開催 7. テニス全仏オープン 8. 原子力産業アレバ社 9. ユーロ危機 10. モナコ大公結婚 11. ツールドフランス 12. モンサンミッシェル 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。AA, A, B, C, F の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08年度以降 07年度以前	上級フランス語 II 時事フランス語 b	担当者	井上 美穂
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。 2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。 3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。 <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組を見て、その大筋をつかむ練習と、細かいききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答えを見つけます。最後に、やはり同じテーマの記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。</p> <p>授業内容は、TCF の対策としても有効だと思われます。</p>		<p>基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。2012年のニュースを予測することはできませんので、以下に 2011 年度秋学期の授業で扱ったテーマを参考として列挙します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高速鉄道 TGV 2. パリのモーターショー 3. デクシア銀行解体へ 4. 万聖節と菊の花 5. サロンドショコラ 6. 心のレストラン 7. 魚の消費が減少 8. お土産物のエッフェル塔 9. トリュフ市始まる 10. クリスマス市 11. 地球の温暖化 12. サッカーヘビデオ判定導入 13. ベルギー政府発足 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書はありません。毎回の授業に辞書を持参して下さい。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。AA, A, B, C, F の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 I フランス語学概論 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。なお、大部分は過去2年間の講義内容とは異なるものとなる。</p> <p>受講者に求めること：受講者のフランス語力は問わないが、内容上、最低でも1年次の文法の授業内容を理解できていなければ、この授業についていくことは難しい。不安なところがある人は、予め復習しておくか、授業時間外に質問に来ること。また、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持って欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をすれば欠席としてカウントしないが、卒業再試験は行わないので注意すること。</p> <p>その他：詳細は http://www.birdcompany.ch/ 参照。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明、フランス語学とはなにか</p> <p>第2回以降は以下のようなテーマを論じる予定：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名詞の形態と性 ・なぜ70を <i>soixante-dix</i> というのか ・なぜ否定文を作る際に <i>ne</i> と <i>pas</i> の2語が必要なのか ・虚辞の <i>ne</i> とはなにか ・なぜ <i>des maisons blanches</i> なのに <i>de belles maisons</i> になるのか ・<i>un peu / peu, quelques / plusieurs</i> はどう違うのか ・<i>un, uns, une, unes / des</i> ・受動態とはなにか ・現在形は現在を表しているのか ・半過去形は過去を表しているのか ・フランス語における外来語 ・なぜ女性なのに <i>grand-mère</i> なのか ・なぜ <i>en été, en automne, en hiver</i> なのに <i>au printemps</i> なのか ・なぜ <i>Que Paul fait-il?</i> とは言えないのか ・結局は発音しない無音の <i>h</i> とはなにか 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。卒業再試験は行わない。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論 II フランス語学概論 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降	フランス語文章理論 I	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>フランス語を書いたり、話しりしていると、今までの文法だけでは不足していると思うことがよくあります。この授業では「フランス語を発信する」ことを念頭に置き、初級文法で取り上げられていない文法項目をとりあげます。「読む」場合は、極端に言えば、主語と動詞と目的語が分かればある程度意味は取れますが、「書く」「話す」など、自分でフランス語の文を作り出す場合はもっと細かい文法知識が必要になります。</p> <p>授業の概要</p> <p>1・2年次で学習した文法をふまえて、フランス語を話す・書くときに間違いやすい事項をさらに言語学的な見地から学習する。特に、コミュニケーションに欠かせない前置詞と、日本人にとって困難な冠詞、論理的な文を書くために不可欠なさまざまな表現をとりあげる。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：動詞の性質と時を表す前置詞の関係 1</p> <p>第3回：動詞の性質と時を表す前置詞の関係 2</p> <p>第4回：場所を表す前置詞 1</p> <p>第5回：場所を表す前置詞 2</p> <p>第6回：場所を表す前置詞 3</p> <p>第7回：場所を表す前置詞 4</p> <p>第8回：手段を表す前置詞 1</p> <p>第9回：手段を表す前置詞 2</p> <p>第10回：手段を表す前置詞 3</p> <p>第11回：être de 名詞 1</p> <p>第12回：être de 名詞 2</p> <p>第13回：動詞+前置詞 1</p> <p>第14回：動詞+前置詞 2</p> <p>第15回：動詞+前置詞 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降	フランス語文章理論 II	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：冠詞に関する練習 1</p> <p>第3回：冠詞に関する練習 2</p> <p>第4回：冠詞に関する練習 3</p> <p>第5回：être + 冠詞</p> <p>第6回：一般的なことを表す冠詞 1</p> <p>第7回：一般的なことを表す冠詞 2</p> <p>第8回：部分冠詞 1</p> <p>第9回：部分冠詞 2</p> <p>第10回：部分冠詞 3</p> <p>第11回：身体の一部を表す名詞と限定詞 1</p> <p>第12回：身体の一部を表す名詞と限定詞 2</p> <p>第13回：<De + 地名>と冠詞</p> <p>第14回：冠詞とモダリティ</p> <p>第15回：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降	フランス言語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。</p> <p><講義概要> 今年「Compréhension et expression orales (écouter et parler)」をテーマに授業を行う。 春学期は、Compétences de communication (コミュニケーション能力)、compréhension orale (écouter)、expression orale (parler) について、フランス語教育の流れの中で見ていく。また実際に、外国語教育におけるコミュニケーション養成のための Compréhension et expression orales の練習などをグループ作業で実際に考え組み立てる。 授業は講義と練習問題作成のための個人作業やグループ作業を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Compétences de communication 1 3. Compétences de communication 2 4. Compétences de communication 3 5. Compréhension orale 1 6. Compréhension orale 2 7. Compréhension orale 3 8. Expression orale 1 9. Expression orale 1 10. Expression orale 1 11. Compréhension et expression orales 1 12. Compréhension et expression orales 2 13. Compréhension et expression orales 3 14. Compréhension et expression orales 4 15. まとめ <p>(順番と内容は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		出席、課題、授業参加態度、個別作業、グループ作業と発表、定期試験。	

08年度以降	フランス言語教育論 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。</p> <p><講義概要> 今年「Compréhension et expression orales (écouter et parler)」をテーマに授業を行う。 秋学期は、compréhension et expression orales の具体的な、より効果的な、自分に合った練習方法を見つけることを目指していく。自分に合う Compréhension et expression orales の学習方法とはどのようなものなのか、同時に、どのような方法があるのかについても考える。そして、Expression orale に関連して、Stratégies de communication についても触れておく。 授業では、実際に様々な練習や活動を行い、それぞれについて自分に合っているかどうかを考える。また自分に合った学習方法を見いだすために個人やグループでの作業や練習を行う。 授業は講義と練習問題作成のための個人作業やグループ作業を進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Compréhension et expression orales 1 3. Compréhension et expression orales 2 4. Compréhension et expression orales 3 5. Compréhension et expression orales 4 6. Stratégies de communication 1 7. Stratégies de communication 2 8. Stratégies de communication 3 9. Compréhension から expression ～ 1 10. Compréhension から expression ～ 2 11. Compréhension から expression ～ 3 12. Compréhension から expression ～ 4 13. Compréhension から expression ～ 5 14. Compréhension から expression ～ 6 15. まとめ <p>(順番と内容は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		出席、課題、授業参加態度、個別作業、グループ作業と発表、定期試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション各論 I フランス語学論 a	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>		<p>1 全般的なオリエンテーション 2-4 代名詞（1）：名詞と代名詞 5-7 代名詞（2）：人称代名詞と中性代名詞 8-10 代名詞（3）：代名詞と照応 11-14 代名詞（4）：先行詞の位置 15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション各論 II フランス語学論 b	担当者	古川 直世
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを講義を通して学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>		<p>1-3 構文（1）：非人称構文 4-6 構文（2）：使役構文 7-9 構文（3）：受動態構文 10-14 構文（4）：その他の構文 15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはハンドアウトを配付する。		評価は試験成績と出席状況による。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><u>But du cours</u> :</p> <p>Pouvoir lire et comprendre des textes de nature politique, sociologique ou économique.</p> <p><u>Contenu</u> : Au début, lecture d'articles destinés aux jeunes, collégiens et lycéens sur des sujets d'actualité ayant rapport aux sociétés francophones et plus particulièrement à la France d'outre mer. Plus tard, les articles seront tirés des journaux habituels.</p> <p><u>Méthode</u> :</p> <p>Je donne, une semaine à l'avance, le texte et une série de questions à préparer. Pendant le cours : lecture, réponse aux questions, travail sur quelques points de grammaire, informations sur le point abordé dans le texte.</p>		<p>1 Présentation du cours</p> <p>2-14. Lecture selon la méthode exposée ci-contre d'articles d'actualité récente pris dans les journaux et revues pour jeunes.</p> <p>(7. Petit test de vocabulaire)</p> <p>15. conclusions.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2012.		Petit test de vocabulaire et examen semestriel : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix (selon le nombre des étudiants).	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir le premier semestre. Dans toute la mesure du possible, nous abordons au 2e semestre des articles des journaux francophones habituels.</p>		<p>1 Bilan du premier semestre.</p> <p>2-14. Lecture selon la méthode présentée au premier semestre d'articles d'actualité récente.</p> <p>15 Conclusions générales</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies. Il est recommandé d'avoir un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2012.		Examen final : vocabulaire, grammaire, compréhension des textes, lecture à haute voix (selon le nombre des étudiants).	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識の習得を目的とする。</p> <p><講義概要> 今年度は春・秋学期ともに「Exercices et activités」をテーマに具体的に考えてみる。春学期は主に exercices と activités の違い、またこれまでの教授法の中での位置づけやそれぞれの時代における特徴について考える。様々なタイプの exercices から activités を作る過程を実際に考えながら学んで行く。Documents authentiques を題材にした exercices も取り上げる。</p> <p>授業では、フランス語や日本語で書かれた文献や資料を参考に、exercices と activités についての理解と基礎知識の習得、フランス語教育の分野におけるこの二つの各時代における役割について学習する。また、実際にある exercices から activités をグループで作成する。授業内での個別作業やグループ作業を効率よく進めるために、毎週、各自が課題や予習をしていることが前提となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction pour le FLE 2. Introduction pour le C.E.C.R. 3. Exercices のタイプ 1 4. Exercices のタイプ 2 5. Exercices のタイプ 3 6. Exercices のタイプ 4 7. Exercices のタイプ 5 8. Exercices のタイプ 6 9. Exercices と activités 1 10. Exercices と activités 2 11. Exercices と activités 3 12. Exercices と activités 4 13. Exercices と activités 5 14. Exercices と activités 6 15. Synthèse <p>(順番と内容は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、グループワークと発表、定期試験（持ち込み不可）。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><講義目的> この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識習得を目的とする。</p> <p><講義概要> 今年度は春・秋学期ともに「Exercices et activités」をテーマに具体的に考えてみる。秋学期は様々なタイプの exercices から activités を作り上げる過程について取り上げる。Documents authentiques を題材にした exercices も含めて、「聞く」「読む」タイプの exercices から「話す」「書く」という発信型の activités にいたるいくつかの段階を具体的に考える。</p> <p>授業では、フランス語や日本語で書かれた文献や資料、教材などを使って、具体的にタイプの異なる exercices を選び、どのような activités につなげることができるのか、またそこにいたるまでの途中段階の練習について、グループ作業を通して考えていく。授業内での個別作業やグループ作業を効率よく進めるために、毎週、各自が課題や予習をしていることが前提となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. Introduction 2. Exercices から activités 〜 1 3. Exercices から activités 〜 2 4. Exercices から activités 〜 3 5. Exercices から activités 〜 4 6. Exercices から activités 〜 5 7. Exercices から activités 〜 6 8. Exercices から activités 〜 7 9. Activités (écouter, lire, parler, écrire) 1 10. Activités (écouter, lire, parler, écrire) 2 11. Activités (écouter, lire, parler, écrire) 3 12. Activités (écouter, lire, parler, écrire) 4 13. Activités (écouter, lire, parler, écrire) 5 14. Activités (écouter, lire, parler, écrire) 6 15. Synthèse <p>(順番と内容は授業の進行状況により変更する。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、個別作業／グループワークと発表、定期試験（持ち込み不可）。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的：辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語力を養成する。</p> <p>講義概要：フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を丁寧に読んでいく（1つの作品を1年間かけて読んでいくというような形ではない）。春学期は仏検2級程度、秋学期は仏検準1級程度の文章を扱う。</p> <p>その他：全員予習は必須。毎回ランダムに全員を指名。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。指名された時に他人の訳を読むような不正行為をした人はFとする。就職活動で欠席する場合には、事前に欠席連絡をし、訳文を指定時刻までにメールで提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は全て応用問題。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。4回以上欠席した場合には、定期試験が満点でも評価対象としない（遅刻2回で1回欠席）。また、単語テストを毎回冒頭実施する。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回以降：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。</p> <p>なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。また、扱う文章はラシーヌ・スタンダールといった文学作品から新聞・雑誌の記事、ブログ、料理のレシピ等、さまざまな分野・文体のものである。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、発表内容、授業への積極的参加姿勢、定期試験、単語テストにより評価する。卒業再試験は行わない。詳細は http://www.birdcompany.ch/ 参照。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		春学期に同じ	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 I フランス語学講読 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>フランス語の上級テキストを読むために必要な語彙力をつけ、同時に単語さえ分かればある程度のテキストは読みこなせる文法力をつけることを目指します。基礎的な語彙を増やすために、いろいろなテーマを扱った短いテキストを読んでいきます。最終的には documents authentiques (フランス語の授業のために作られた教材ではなく、フランス人が日常的に使っている様々な資料)を読みこなせるようになればいいと思います。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：Va-t-elle tout refuser ?</p> <p>第3回：D'accord ou pas d'accord</p> <p>第4回：La tour Eiffel</p> <p>第5回：Cafés, bistros et brasseries</p> <p>第6回：Yves Saint Laurent</p> <p>第7回：Sur le Pont d'Avignon</p> <p>第8回：Les vitrines de Noël</p> <p>第9回：Faut-il emmener les enfants au musée?</p> <p>第10回：La butte Montmartre</p> <p>第11回：L'aventure de livre de poche</p> <p>第12回：Manger bio?</p> <p>第13回：Les langues parlées en France</p> <p>第14回：Le sel au quotidien</p> <p>第15回：Être sportif de haut niveau</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降 07年度以前	フランス語コミュニケーション講読 II フランス語学講読 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>TV5のニュースの transcription を読みながら、時事的なフランス語を読み・聞く訓練をします。テレビ番組なのでヒヤリングの練習にもなるし、DELFのA2～B2までの練習問題も付いているので、自分のパソコンでDELFやTCFの受験練習をすることもできます。</p>		<p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：その週のテレビ番組による</p> <p>第3回：（以下同じ）</p> <p>第4回：</p> <p>第5回：</p> <p>第6回：</p> <p>第7回：</p> <p>第8回：</p> <p>第9回：</p> <p>第10回：</p> <p>第11回：</p> <p>第12回：</p> <p>第13回：</p> <p>第14回：</p> <p>第15回：</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術 II フランスの美術 b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 17世紀から19世紀末までのフランス美術を概観します。時代背景や当時の美術制度について知識を深め、歴史的コンテキストのなかで、それぞれの画家と作品を理解することを目的とします。</p> <p>講義概要： 毎回一人の作家を中心に取り上げ、画像や映像を用いて代表的な作品について解説します。受講生の皆さんには毎回コメントペーパーを書いて提出してもらいます。コメントの内容を次回の授業で取り上げ、さらに解説を加える場合もあります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. ブッサン 3. プーシェ 4. シャルダン 5. ダヴィッド 6. アングル 7. ドラクロワ 8. ミレー 9. マネ 10. 印象派-1 11. 印象派-2 12. セザンヌ 13. スーラ 14. ゴーギャン 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>プリントを配布します。 参考文献は必要に応じて授業中に指示します。</p>		<p>コメントペーパー（毎回提出してもらいます。） 学期末試験</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽 I フランスの音楽 a	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスを中心に、その周辺国も視野に入れながら、西洋音楽史を辿り、時代によって音楽表現がどのように変化してきたかを見ていきます。時代の制約の中から出てきた表現のどこに永続的な価値を見つけられるか、作品を味わいながら感じ考えていき、現代を見つめる手立てにすることが講義の目的です。</p> <p>春期はバロック時代（17～18世紀半ば）の宗教作品からはじめます。キリスト教の精神がここでどのように音楽作品に反映されているかを見る一方で、世俗音楽の代表であるオペラの発展も見えていきます。さらに次の古典派の器楽も扱います。</p> <p>音・楽譜・映像を活用しながら進めますが、授業で紹介した作品については学生もみずから積極的に聴くように心がけてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス・バロックの宗教音楽 3. バロックのオラトリオとヘンデルのオラトリオ 4. バッハの教会カンタータ 5. ミサ曲 6. バロック以降のミサ曲：モーツァルトなど。 7. フランスのオペラ改革（ブフォン論争） 8. モーツァルトのオペラ 1 9. モーツァルトのオペラ 2 10. 前古典派 11. 古典派の理念と形式 12. 18世紀後半のフランス音楽 13. ハイドンの器楽 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。 参考文献は授業時に紹介。		出席（10%）と、2回の試験の平均（90%）による（各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない）。	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽 II フランスの音楽 b	担当者	松橋 麻利
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスを中心に、その周辺国も視野に入れながら、西洋音楽史を辿り、時代によって音楽表現がどのように変化してきたかを見ていきます。時代の制約の中から出てきた表現のどこに永続的な価値を見つけられるか、作品を味わいながら感じ考えていき、現代を見つめる手立てにすることが講義の目的です。</p> <p>秋期は、モーツァルト、ベートーヴェンの器楽から入り、19世紀のロマン派の表現を見ていきます。</p> <p>音・楽譜・映像を活用しながら進めますが、授業で紹介した作品については学生もみずから積極的に聴くように心がけてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. モーツァルトの器楽 1 3. モーツァルトの器楽 2 4. ベートーヴェンの器楽 1 5. ベートーヴェンの器楽 2 6. ロマン派の理念 7. フランスのベルリオーズ 8. ロマン派のオペラ 1 9. ロマン派のオペラ 2 10. ロマン派のオペラ 3 11. ロマン派のピアノ曲 1：シューベルト 12. ロマン派のピアノ曲 2：シューマン 13. ロマン派のピアノ曲 3：ショパン 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。 参考文献は授業時に紹介。		出席（10%）と、2回の試験の平均（90%）による（各試験実施の時点で 1/3 以上欠席の学生には受験を認めない）。	

08年度以降 07年度以前	フランスの舞台芸術 I フランスの演劇 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今年度は「フランス・バレエの歴史」をテーマとして扱います。</p> <p>春学期は「宮廷バレエー宮廷舞踏からオペラ・バレエへ」と題し、16世紀から18世紀にかけてのフランスにおける宮廷バレエの成立からその発展的解消までの歴史を講義します。宮廷バレエはフランスの宮廷社会が生み出した独特の芸術様式で、その形式は、絶対王政の進展とともに、独自の政治的・社会的・文化的意味を担って発展してきました。それは、ダンス・音楽・舞台装置・衣裳・歌・朗読などが組み合わされた総合的なスペクタクルであり、19世紀以降の寡黙な近代バレエ、ロマンチック・バレエとはかなり内容、性質、テクニク等が異なります。</p> <p>受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。</p> <p>ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。</p> <p>なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 春学期授業概要の説明 2. 宮廷舞踏の誕生 (16世紀) 3. 宮廷舞踏から宮廷バレエへ (イタリアの影響) 4. 『王妃の演劇的バレエ』 5. 宮廷バレエの身体技法 6. ルイ 13 世期のバレエ概観 7. ルイ 14 世期のバレエ概観 8. 『夜のバレエ』 9. 宮廷祝祭とバレエ 10. モリエールのコメディ・バレエ 11. 『町人貴族』 12. オペラ・バレエの誕生 13. 18世紀のバレエ概観 14. ジャン＝フィリップ・ラモー、ノヴェール 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし 6 回以上欠席した場合には自動的に F 評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランスの舞台芸術 II フランスの演劇 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行いません。</p> <p>秋学期は、19世紀以降の近代バレエの歴史をたどりまします。宮廷バレエのダンサーは男性中心でしたが、19世紀にのバレエは女性中心となり、バレエ・リュスの衝撃を経て、20世紀に再び男性がバレエの世界に戻ってきます。近代バレエの歴史を理解する上で欠かせないフランスとロシアが果たした役割についても扱い、19、20世紀におけるバレエ史上のスターたちについてもフランス関係を中心に紹介します。ただし、この授業では、あくまで文化的な観点からバレエを考察し、その歴史的な意味を探ります。単にバレエが好きだから等の理由でこの授業を選択しても、期待したような内容の話聞くことはできないでしょう。</p> <p>受講者の理解を助けるために、映像、音声等も活用します。</p> <p>ただ教室に座っていれば単位がもらえると思っているような人は受講無用です。評価は厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。積極的な授業参加の意欲の持ち主を歓迎します。授業の質は受講者の質によっても左右されます。</p> <p>なお、授業計画は一応の目安に過ぎず、必ずしも予定通り進行するものではないことをお断りしておきます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 秋学期授業概要の説明 2. ロマンティック・バレエの誕生 3. 『ラ・シルフィード』 4. 『ジゼル』 5. ロマンティックからクラシックへ 6. 『 Coppélia 』 7. フランスからロシアへ 8. 『白鳥の湖』 9. 『眠れる森の美女』 10. ロシアから再びフランスへーバレエ・リュス 11. 『薔薇の精』、『火の鳥』 12. 20世紀のバレエ概観 13. モーリス・ベジャール 14. オペラ座バレエ団 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストなし。参考文献は授業時に紹介。		学期末定期試験で評価。ただし 6 回以上欠席した場合には自動的に F 評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史 I フランス文学史 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フランスの文学と歴史」(その1)</p> <p>フランスの中世から現代まで、作家たちがどのような文学作品を創造してきたのか、そして読者たちがどのような作品を受容してきたのかを概観することによって、文化形成の歴史の一端を探求します。「文学」ということばそのものも、フランスと日本とでは、もつ意味の広さが異なります。日本の文化・歴史をつねに念頭におきつつ、人間の文化創造の営みを相対的に理解することを目指します。</p> <p>フランス文学の歴史を、各時代の政治・宗教、あるいは絵画・彫刻・建築・音楽等の芸術思潮と関連づけながら、代表的な文学作品を紹介しします。学生諸君は、自らの選択で作家・作品を選び、読みかつ論じること、フランス文学に親しみ、作品に照らして自らの思索の方途を見いだし、書くことによって論理的思考を涵養してください。</p> <p>出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。</p> <p>自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介 2 「文学」ということばのもつ広がり (フランスと日本) 3 「文学史」とは? 文化と歴史 (フランスと日本) 4 フランス中世と文学 (その1) 5 フランス中世と文学 (その2) 6 フランス中世と文学 (その3) 7 フランス16世紀・ルネッサンス (その1) 8 フランス16世紀・ルネッサンス (その2) 9 フランス16世紀・ルネッサンス (その3) 10 レポート解説・紹介および試験 11 フランス17世紀・古典主義 (その1) 12 フランス17世紀・古典主義 (その2) 13 フランス17世紀・古典主義 (その3) 14 レポート解説・紹介および試験 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995)</p> <p>教室で随時プリントを配布します。</p>		<p>授業への参加度(出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史 II フランス文学史 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フランスの文学と歴史」(その2)</p> <p>授業計画に示したように、フランス文学史を時代順に概観すると並行して、詩・演劇・小説・思想などのジャンルについても、その変遷がわかるように、随時、説明を加えます。</p> <p>授業では、可能な限り、参考書をもとに学生が選んだテーマに即して、個別具体的な作品を論じながら、時代背景と作品生成との関連を解説します。</p> <p>演劇については録画を、詩と小説については朗読の録音を紹介し、文化史的背景についてはスライド上映などで、説明を補う予定です。</p> <p>できるだけ多くの文学作品を知り、そのなかから学生諸君が自らの関心に即した作品を選び、親しむことを目標にします。</p> <p>講義は参考書を用いながら、随時テキストを抜粋したプリントで行います。</p> <p>出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。</p> <p>自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期のまとめと後期の展望 2 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その1) 3 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その2) 4 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その3) 5 レポート解説・紹介および試験 6 フランス19世紀・ロマン主義 (その1) 7 フランス19世紀・ロマン主義 (その2) 8 フランス19世紀・象徴主義 (その1) 9 フランス19世紀・象徴主義 (その2) 10 レポート解説・紹介および試験 11 フランス20世紀・両次大戦間の文学 12 フランス20世紀・実存主義 13 フランス20世紀・文芸思潮 14 レポート解説・紹介および試験 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995)</p> <p>教室で随時プリントを配布します。</p>		<p>授業への参加度(出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの文学 I フランス文学各論 a	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、フランス語のテキストを緻密に、ていねいに読みとく訓練をすると同時に、文学作品を分析し論じるための基本的な方法を身につけることを目指します。</p> <p>春学期では、19世紀の女性をめぐるスケッチやコント、具体的にはバルザックの『結婚の生理学』、ボードレールの『化粧礼賛』、モーパッサンの『首飾り』、ゾラの『引き立て役』を読みます。同時代のあらゆる事ごとに創作の源泉を見だし、批判的なまなざしを注いだ19世紀の作家たちにとって、女性の虚栄心は格好の素材でした。女性を「飾ること」を描いたこれらのテキストは、「美」とはなにか、「醜さ」とはなにかを問いかけています。</p> <p>毎回担当者を決めてフランス語の抜粋を訳読し、簡単なコメントを加えてもらいます。それぞれの作家が当時の女性に向ける、鋭くかつ皮肉なまなざしに、共感できるのか疑問ないし反発を覚えるのか、活発な議論を期待します。</p>		<p>(以下のプランはあくまでも目安であり、授業の進度に応じて内容を変更する可能性があります。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：19世紀における女性の表象 2. バルザック『結婚の生理学』(I) 3. バルザック『結婚の生理学』(II) 4. ボードレール『化粧礼賛』(I) 5. ボードレール『化粧礼賛』(II) 6. モーパッサン『首飾り』(I) 7. モーパッサン『首飾り』(II) 8. モーパッサン『首飾り』(III) 9. モーパッサン『首飾り』(IV) 10. ゾラ『引き立て役』(I) 11. ゾラ『引き立て役』(II) 12. ゾラ『引き立て役』(III) 13. ゾラ『引き立て役』(IV) 14. ゾラ『引き立て役』(V) 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配布します。		授業への参加度（出席と訳読）、および期末レポート。	

08年度以降 07年度以前	フランスの文学 II フランス文学各論 b	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期は、エミール・ゾラの『パリの胃袋』(1873)をとりあげます。美食や食道楽をめぐる作品は多いですが、ゾラは近代都市の食生活を支える「流通」と「消費」の場である、パリの中央市場そのものを描きました。</p> <p>本作品では、肉屋と魚屋のおかみ、「デブ」と「ヤセ」、「一般人」と「危険分子」などの対立が描かれます。そして彼らの暮らしには、肉・魚・野菜・チーズなどあらゆる食物があふれ、背景の視覚的効果を高めています。</p> <p>けっしてすらすら読める原文ではありませんが、主人公のまなざしを通して鮮やかに描写される、市場のさまざまな風景を読みとくことで、食と政治が見事に絡みあう物語のもつダイナミックな底力にひきこまれていくでしょう。</p> <p>2回の授業で一章ずつとり上げ、前半では内容の要約およびフランス語抜粋の訳読、後半では担当者を決めて各章の内容に関する発表をしてもらいます（テーマはこちらから指示）。半期で一冊を読み通すことを目標とします。各自あらかじめ翻訳を読んでおくことが望ましいでしょう。</p>		<p>(以下のプランはあくまでも目安であり、授業の進度に応じて内容を変更する可能性があります。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション（都市の食生活） 2. パリの中央市場（鉄骨とガラスの建築） 3. 第一章 (I) 4. 第一章 (II) 5. 第二章 (I) 6. 第二章 (II) 7. 第三章 (I) 8. 第三章 (II) 9. 第四章 (I) 10. 第四章 (II) 11. 第五章 (I) 12. 第五章 (II) 13. 第六章 (I) 14. 第六章 (II) 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
エミール・ゾラ『パリの胃袋』(朝比奈弘治訳、藤原書店、2003) テキストはプリントで配布します。		授業への参加度（出席と発表）、および期末レポート。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論 I フランス文学各論 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「パンテオンの仮想の壁画を巡る考察」</p> <p>19世紀フランス文学、とりわけロマン主義文学においては、さまざまな神話的テーマが展開され、作品を創造する動機や骨組みをなしています。大地母神から聖母マリアにいたる「母神」あるいは「救済の女神」の神話、「呪われた種族カイン」あるいは「さまよえるユダヤ人」の神話などが、ユゴーやバルザック、そしてゾラにいたる文学作品を特徴づけています。同様のテーマと発想が美術作品にもみられます。そして「空想的社会主義」と呼ばれる「ユートピア」思想にも、同様の神話的想像力の発動がみられ、19世紀フランス社会を揺り動かす原動力のひとつになっています。</p> <p>今回は、具体的作品として、画家ポール・シュナヴァールが構想したパンテオンの壁画の下絵について、ゴッテの解説文をてがかりに、人類普遍の神話と諸教混淆の宗教思想や、ユートピアの表象を読み解きつつ、時代精神の表出について考えていきます。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <p>1: 19世紀フランスの文学と社会 (序論) 2: 文学と美術に共通するいくつかの神話的テーマ 3: パンテオン (万神殿) の構想 (1) 4: パンテオン (万神殿) の構想 (2) 5: ポール・シュナヴァールの壁画 (1) 6: ポール・シュナヴァールの壁画 (2) 7: ポール・シュナヴァールの壁画 (3) 8: ゴッテの美術批評について 9: ゴッテ解説文の読解 (1) 10: ゴッテ解説文の読解 (2) 11: ゴッテ解説文の読解 (3) 12: 人類普遍の神話と社会の輪廻転生 (1) 13: 人類普遍の神話と社会の輪廻転生 (2) 14: まとめと展望 (バルザックやゾラの小説における神話的テーマについて) 15: 講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『ジェラルド・ド・ネルヴァール 幻想から神話へ』(田村毅、東京大学出版会、2005)		授業への参加度 (出席と発表)、課題を前もって示す試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論 II フランス文学各論 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「パリのポエジー — 19世紀フランス文学における「パリ」の表象」</p> <p>19世紀に近代都市として生まれ変わりつつあるパリは、例えばバルザック「人間喜劇」やボードレール「パリの憂鬱」、そしてユゴー「レミゼラブル」にいたるまで、主題として、あるいは背景として、多くの文学作品に描かれ、また絵画の主題にもなっています。</p> <p>今回は、ネルヴァールの『十月の夜』を中心に読みながら、語り手と共に地図を頼りにパリを散策し、現実から想像界へと変化するパリの街並みと登場人物たちを観察します。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <p>1: 19世紀フランスの文学と社会 (再論) 2: 文学と美術に共通するいくつかの主題 3: 「パリ」の表象 (1) 4: 「パリ」の表象 (2) 5: 「パリ散策」(『十月の夜』) (1) 6: 「パリ散策」(『十月の夜』) (2) 7: 「パリ散策」(『十月の夜』) (3) 8: パリのポエジー (1) 9: パリのポエジー (2) 10: パリのポエジー (3) 11: ボードレール「パリの憂鬱」 12: ユゴー『レミゼラブル』(1) 13: ユゴー『レミゼラブル』(2) 14: まとめと展望 (ユゴーの神話的テーマについて) 15: 講義のまとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考書『ジェラルド・ド・ネルヴァール 幻想から神話へ』(田村毅、東京大学出版会、2005)		授業への参加度 (出席と発表)、課題を前もって示す試験とレポート。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論Ⅰ フランス文学各論 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランス20世紀の文学者のなかから「ことばの意味と音」の新しいありかたを探究した詩人たちをとりあげます。</p> <p>作品との出会いを通して、ことばの「物質性」、「模倣性」、「線状性」、「生産性」などについての知識と思考を深めることを目的とします。</p> <p>各テーマについて初回の授業で紹介をおこなったのち、具体的なテキストの読解に入ります。テキストは原則的にフランス語で配布します。参加者の疑問点や感想などを手がかりにしながら分析や解説をすすめることがあるので、配布された資料は次回までに目を通してきてください。</p> <p>授業計画は進度により変更する可能性があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：ことばの音と意味 2. ダダⅠ：「ダダ ハ ナニモ 意味シナイ」 3. ダダⅡ：音声詩 4. マルセル・デュシャン：「選ぶ」ということ 5. シュルレアリスムⅠ：自動記述 6. シュルレアリスムⅡ：言語遊戯 7. シュルレアリスムⅢ：客観的偶然 8. ロベール・デスノスⅠ：霊媒の時代 9. ロベール・デスノスⅡ：詩作品 10. ロベール・デスノスⅢ：強制収容所にて 11. ミシェル・レリスⅠ：カリグラム 12. ミシェル・レリスⅡ：私的な辞書 13. ミシェル・レリスⅢ：言葉をめぐる記憶 14. ミシェル・レリスⅣ：ドゴンの秘密言語 15. 総論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布します。		出席、毎回のコメントペーパー、レポート。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化各論Ⅱ フランス文学各論 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続きなので、継続履修が望ましいです。</p> <p>こんな作品があったんだ、とその存在を知るだけでも面白くなるような作品を秋学期に集めてみました。</p> <p>授業計画は進度により変更する可能性があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション：驚異と発見 2. レーモン・ルーセルⅠ：規則マニア 3. レーモン・ルーセルⅡ：無限小の世界 4. レーモン・ルーセルⅢ：「読む」という体験 5. レーモン・ルーセルⅣ：括弧の中の括弧の中の..... 6. ウリポの言語実験Ⅰ：「ウリポ」から「パパー」まで 7. ウリポの言語実験Ⅱ：ジョルジュ・ペレック 8. レーモン・クノーⅠ：無限の詩 9. レーモン・クノーⅡ：無限の文体 10. レーモン・クノーⅢ：反=恋愛小説 11. レーモン・クノーⅣ：「文学狂人」たち 12. フランシス・ポンジュⅠ：物の味方 13. フランシス・ポンジュⅡ：語の味方 14. フランシス・ポンジュⅢ：やむにやまれぬ表現の欲求 15. 総論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントで配布します。		出席、毎回のコメントペーパー、レポート。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>近代フランスでは、絵画と文学というふたつの芸術ジャンルが、かつてなく接近しました。絵画の自由を求め、新たな表現様式を生みだす画家を、すぐれた美術批評家でもあった文学者たちはいち早く評価しました。本講義では、イマージュとテキストを軸に、近代フランス美術史の豊かな脈へとアプローチすることを目指します。</p> <p>春学期は、近代絵画における「室内」、そこに描かれる人物や情景の変遷を、時代ごとにたどります。プライベートな空間の描きわけや、それぞれのモチーフが暗示するメッセージを読みとけながら、「女性」や「家族」など、当時の絵画と文学が共有したテーマを再発見します。ディドロ、ボードレール、ゾラ、ユイスマンスなど、当時もとても先鋭的だった美術批評も理解の支えとします。</p> <p>授業では、ひとりひとりに訳読かテーマに沿った発表をしてもらうことを考えています。また、授業計画はあくまで目安であり、変更の可能性のあることをお断りします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代フランスにおける「室内」 2. 絵画と美術批評 I：シャルダンとディドロ 3. シャルダン 4. フラゴナール 5. グルーズ 6. 絵画と美術批評 II：ドラクロワとボードレール 7. アングル 8. ドラクロワ 9. 絵画と美術批評 III：マネとゾラ 10. クールベ 11. マネ 12. 絵画と美術批評 IV：ユイスマンスと象徴主義 13. ナビ派のアンティミスム 14. ボナール、ヴュイヤール、ヴァロットン 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリントで配布。参考文献は、講義の中でその都度紹介します。		平常点（出席とテーマ発表）および学期末のレポート。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	福田 美雪
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に引き続き、近代フランスの絵画と文学を結ぶ主要なテーマ、その形成に大きく影響した時代背景を、イマージュとテキストの双方から読みときます。</p> <p>秋学期は「風景を見る眼」をテーマに、内から外へと出て風景を写しとる芸術家たちの試みを探ります。ひとくちに「風景」といっても、庭や公園にはじまり、都市、郊外、あるいは海辺や異国の風景があります。光や空気の変化によって、うつろいゆく風景を「あるがままにとらえること」は、印象派前後の画家たちの至上命題でしたが、その「自然」のとらえ方はさまざまでした。</p> <p>風景を通した 19 世紀文化の表象は、ゾラをはじめとする小説家たちの関心事でもあり、「自然とはなにか」という問いをめぐって、多くのテキストが書かれています。</p> <p>授業では、ひとりひとりに訳読かテーマに沿った発表をしてもらうことを考えています。また、授業計画はあくまで目安であり、変更の可能性のあることをお断りします。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 風景画と文学：いかに自然を描くか 2. 窓辺の人物：内と外の境界線 3. アトリエから戸外へ 4. 水のある風景 5. レジャーの情景 6. 旅先のスケッチ 7. 印象派の風景 I（庭、公園） 8. 印象派の風景 II（都市） 9. 印象派の風景 III（自然） 10. フランスにおけるジャポニスム 11. セザンヌとゾラ 12. ゴッガンとタヒチ 13. ブルーストとラスキン 14. 風景画と美術館 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
資料はプリントで配布。参考文献は、講義の中でその都度紹介します。		平常点（出席とテーマ発表）および学期末のレポート。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>インターネット時代にまず要求される語学力は文章読解力でしょう。それだけでなく、フランス語をきちんと話したり書いたりできるようになりたかったら、まずはきちんと読むことから始めないといけません。文字情報は音声情報よりもずっと豊かなものだからです。この授業では、話したり書いたりするときにも役に立つ知識を、いかに読みながら獲得するかという観点から、きちんとした読解力を身につけるための基礎訓練を行います。</p> <p>今年度は、フランス文化学習教材として編纂された <i>Clés pour la France en 80 icônes culturelles</i> (Hachette) をテキストとして用います。飲食物・料理、著名人、歴史、産業・教育、言語・メディア・文化、日常生活など様々な分野のテーマを扱い、楽しく読解力を養いながら同時にフランス文化に対する理解が深まるようなテキストです。</p>		<p>1. 授業概要の説明、テキストの紹介 2～15. 講読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
テキストはプリントで配付。		出席点、平常点、学期末定期試験を総合的に勘案して評価。ただし、一度も授業中に訳を担当しなかった者は、試験の成績如何に関わらず F 評価とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	江花 輝昭
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に同じ。継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行わない。</p>		春学期に同じ。	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ。		春学期に同じ。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>19世紀後半の大衆小説家 Jules Verne の中編小説 <i>Les forceurs de blocus</i> を読む（翻訳はない）。昨年度第1章を読んだので、2章から読み始めるが、それまでの話を知らなくても理解できる。</p> <p>授業は毎回、数人の学生に訳を担当してもらう（前回授業時に指名する）。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は全員予習が必須である。受講者制限をする可能性があるため、履修を希望する学生は必ず1回目の授業に出席すること。</p> <p>仏和辞書についての注意:学習者用の辞書・電子辞書(Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど)では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典(大修館書店)やロワイヤル仏和中辞典(旺文社)などの中辞典が必要である。特に担当者は学習用辞書だけで予習し、「辞書に載っていませんでした」と言い訳することは許さない。自分で持っていない場合は、図書館で予習すること。</p>		<p>1回目：授業の概要の説明。作者紹介。人数過多の場合は簡単なテストで制限を行なう。</p> <p>2回目：講読。</p> <p>3：続きを読む。</p> <p>4：続きを読む。</p> <p>5：続きを読む。</p> <p>6：続きを読む。</p> <p>7：続きを読む。</p> <p>8：続きを読む。</p> <p>9：続きを読む。</p> <p>10：続きを読む。</p> <p>11：続きを読む。</p> <p>12：続きを読む。</p> <p>13：続きを読む。</p> <p>14：続きを読む。</p> <p>15：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jules Verne, <i>Les forceurs de blocus</i> , Librio, 2005.		定期試験および平常点（出席および予習の程度）。ただし、一度も授業中に訳を担当しない者は、出席・試験の成績の如何に関わらず、不可とする。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の続き。春学期からの継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は、特に行わない。</p>		<p>1回目：春学期の続きを読む。</p> <p>2：続きを読む。</p> <p>3：続きを読む。</p> <p>4：続きを読む。</p> <p>5：続きを読む。</p> <p>6：続きを読む。</p> <p>7：続きを読む。</p> <p>8：続きを読む。</p> <p>9：続きを読む。</p> <p>10：続きを読む。</p> <p>11：続きを読む。</p> <p>12：続きを読む。</p> <p>13：続きを読む。</p> <p>14：続きを読む。</p> <p>15：まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読b	担当者	阿部 明日香
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的： 美術について論じたフランス語のテキストを読むことで、美術に関する語彙を学ぶとともに、読解力を養うことを目的とします。 同時に、美術に関わる諸問題について理解を深めます。</p> <p>講義概要： 授業は輪読形式で進めます。必ず予習して、自分なりの訳をつくってから授業にのぞんでください。</p> <p>一回目の授業から読み始めますので、必ず辞書を持参してください。</p>		<p>1. ガイダンス+テキスト配布+訳読 2-15. 訳読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを配布します。		平常点（出席および毎回の発表）と定期試験。 授業中に課題を出す可能性もあります。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フランス詩を暗唱しよう」</p> <p>言語の運用能力を高めるには、まずは文章を暗記することが基本です。ことばのリズム、発音、抑揚をまるごと暗記しましょう。暗唱するには、その努力に見合う美しいフランス語を選びましょう。フランス語の粋（すい）は詩にあります。</p> <p>フランス詩は、声に出して読むために、暗唱するためにできています。美しい詩はおぼえやすくできています。詩はことばの音楽です。暗唱することによって、フランス詩の韻律を体感しましょう。「詩的快楽は（発声する）筋肉の歓び」（André Spire）です。</p> <p>短くてやさしい抒情詩から、おぼえにくい長文の叙事詩へと、段階を追って進みます。フランス詩法や韻律を解説し、フランス詩をもとにフォーレやドビュッシーが作曲したフランス歌曲を紹介します。作曲家たち、あるいは歌手たちがどのように詩を解釈し、韻律を曲にしたて、そして歌っているかを分析します。（歌の才能に恵まれた人は自ら歌ってみてください、強制はしません。）</p> <p>半年間でできるだけ多くの詩を暗記しましょう。</p>		<p>（下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介 2 フランス詩について（暗唱 Verlaine 1） 3 フランス詩法について 1（暗唱 Verlaine 2） 4 フランス詩法について 2（暗唱 Apollinaire 1） 5 詩の解説と暗唱 Baudelaire 1 6 詩の解説と暗唱 Baudelaire 2 7 詩の解説と暗唱 Baudelaire 3 8 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc 9 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc 10 フランス詩と歌曲（Verlaine et Fauré 1） 11 フランス詩と歌曲（Verlaine et Fauré 2） 12 フランス詩と歌曲（Baudelaire et Debussy 1） 13 フランス詩と歌曲（Baudelaire et Debussy 2） 14 詩の暗記と暗唱について（まとめ） 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度（出席と発表）、試験（できるだけ多くの詩句を暗記する）、あるいは課題を前もって示す試験（詩句の解釈と翻訳）。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 II フランス文学講読 b	担当者	田村 毅
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「フランス詩を読もう」</p> <p>フランス詩を暗唱することによって、韻律を体感し、詩的快楽を堪能してもらいます。</p> <p>詩を暗唱するのと並行して、対象を徐々に短い抒情詩から長い叙事詩へと移行し、詩の物語性（あるいは神話的構造）に着目し、「詩を読む」てほどこきをします。</p> <p>詩句における語の意味の拡がり、語義の多層性、詩句の曖昧さと想像力、散文と韻文の違い、等々について、考えながら、Hugo, Nerval, Baudelaire, Apollinaire 等の代表的な詩を読み、そして聞きます。</p> <p>詩句はさまざまに翻訳することができます。作曲家が詩句を解釈して音楽をつけたように、フランス詩を日本語に翻訳する場合にも、幾通りもの翻訳が可能であり、訳す楽しみがあります。翻訳するためには、正確な解釈が必要です、しかし、その解釈は一つではなく、翻訳に一つの正解はありません。できるだけ正確に、しかも自分のことばによる翻訳を楽しみましょう。（歌うためにも詩句の正確な解釈が必要です。）</p> <p>フランス詩を楽しむ機会はなかなかないでしょうから、授業への積極的な参加（出席と発表）を期待します。</p>		<p>（下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 フランス文学における抒情詩と叙事詩 2 詩を読む Victor Hugo 1 3 詩を読む Victor Hugo 2 4 詩を読む Victor Hugo 3 5 詩を読む Victor Hugo 4 6 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 1 7 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 2 8 詩を楽しむ Gérard de Nerval 1 9 詩を楽しむ Gérard de Nerval 2 10 詩を楽しむ Gérard de Nerval 3 11 詩を楽しむ Apollinaire 1 12 詩を楽しむ Apollinaire 2 13 詩を楽しむ Apollinaire 3 14 詩と解釈、翻訳の問題（まとめ） 15 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度（出席と発表）、試験（できるだけ多くの詩句を暗記する）、あるいは課題を前もって示す試験（詩句の解釈と翻訳）。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読 I フランス文学講読 a	担当者	M. ミズバヤシ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Objectif</p> <p>Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p>Contenu</p> <p><i>Amandine ou les deux jardins</i>. Ce sera pour nous l'occasion de pénétrer dans un monde rempli de rêves et de poésie, décrit avec une simplicité et une naïveté qui savent toucher aussi bien les enfants que les adultes.</p>		<p>Nous lirons ensemble <i>Amandine ou les deux jardins</i> de Michel Tournier, l'histoire d'une petite fille qui part à l'aventure dans un immense jardin pour grandir loin de l'influence de ses parents.</p> <p>Dans ce cours nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises.</p> <p>Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi les livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls chez eux.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière aux cours Contrôle continu	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅰ フランス文学講読 a	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>漢の老絵師、汪佛（ワンフォ）とその弟子の玲（リン）はいかにして皇帝の怒りから我が身を救ったか――。</p> <p>春学期は 20 世紀の女性作家マルグリット・ユルスナールの短篇『老絵師の行方』を読みます。ユルスナール自身が子供のために書きなおした平易かつ端整なフランス語によるヴァージョンを使用します。</p> <p>発表および試験では、「訳」や「大意」だけではなく「正しく音読できるか」「構文がきちんと取れているか」「指示語や代名詞の指すものを理解しているか」「文章の論理をきちんと追えているか」等が問われます。</p>		<p>1. テキストの配布は初回の授業でしか行ないませんので必ず出席すること。第一回目から読み始めます。</p> <p>2 - 15. 講読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業でプリントを配布。		出席、授業での発表、筆記試験。	

08年度以降 07年度以前	フランス芸術文化講読Ⅱ フランス文学講読 b	担当者	谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>1953年に「私が出会ったもっとも忘れがたい人物」として、南仏の作家ジャン・ジオノが描き出した、ひとりの羊飼いの物語。</p> <p>秋学期は短篇『木を植えた男』を読みます。</p>		<p>1. テキストの配布は初回の授業でしか行ないませんので必ず出席すること。第一回目から読み始めます。</p> <p>2 - 9. 講読</p> <p>10. フレデリック・バックによるアニメーション映画『木を植えた男』鑑賞</p> <p>11 - 15. 講読</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
初回の授業でプリントを配布。		出席、授業での発表、筆記試験。	

2012年(秋)	フランス語芸術文化講読 II	担当者	B.P. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>「魅惑の南仏物語」</p> <p>～南仏：魅力あふれる文化・ライフスタイル・グルメ～</p> <p>南仏・コート・ダジュールは年間にして約3000ものイベント（コンサート・芝居上演・フェスティバルなどを）が催され、50件以上の美術館が芸術に関心をもつ人々を心から満足させてくれる地方です。Maupassant, Colette, Renoir, Hemingway, Fitzgerald, Matisse, Chagall, フジタ, Brad Pitt, Johnny Depp に愛されたコート・ダジュールを発見しましょう！</p> <p>Ce cours propose une promenade découverte culturelle du sud de la France : le Midi. Notre point de départ sera le festival international de cinéma de Cannes et le nouveau cinéma français. Nous étudierons à partir de lectures et de documents sonores et visuels.</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1・授業ガイダンスとテーマの紹介 2・南仏の世界遺産 3・香水の都Grasse 4・芸術と文学と音楽 5・南仏：魅力あふれる文化&ライフスタイル 6・南仏の楽しみ方 7・美しい田園と陽光あふれる紺碧海岸。 8・カンヌ国際映画祭 9・第7芸術：映画 10・フランスのニューシネマ 11・食文化との出会い：朝市巡り。 12・パリは映画愛好者の天国 13・Noel、サントン人形の世界 14・モナコ人ってどんな人ですか？ 15・まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「カイエ・テマティック 2 (フランス映画)」</p> <p>« Les cahiers du français 2 » ISBN 4 8086 2156 8</p> <p>第三書房</p>		<p>授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス地域論 I フランスの地誌 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの地域の枠組みおよび主体としての公共団体は我が国のそれと比較した場合に、類似する側面とある意味で反対の側面をもっている。本講義は、フランスの地方の制度の実態と特徴を学び、地域のあり方について考えることを目的とする。</p> <p>フランスの地域の枠組みとしての現代の地方制度を理解した上で、それがもつ意味を、その成立の経緯を通して学ぶ。まず、旧プロヴァンスを基本的に否定する地方制度として誕生した現代のデパルトマンの成立の経緯とそれに託された意味を考える。</p> <p>次に、広域の地方としてのレジオンの成立の経緯とその意味を考察する。レジオンに相当する制度は我が国には存在しないが、我が国で議論されている道州制にそれと共通する要素が見出される。</p> <p>フランスのコミュヌは我が国の市町村に対応する基礎的自治体である。都市の歴史を振り返り、コムユヌの歴史的基盤について考える。また、現代におけるコムユヌの合併と連合という課題を通して、コムユヌの実態を学び、身近な地域の枠組みのあり方について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. 地域の枠組み 3. 海外フランス 4. プロヴァンスからデパルトマンへ1 5. プロヴァンスからデパルトマンへ2 6. レジオンの誕生1 7. レジオンの誕生2 8. 中間のまとめ 9. 基礎自治体としてのコムユヌ 10. 都市の歴史とコムユヌ1 11. 都市の歴史とコムユヌ2 12. コムユヌの合併と連合1 13. コムユヌの合併と連合2 14. コムユヌの合併と連合3 15. まとめ <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>試験またはレポートの結果を主とし（2/3）、出席を考慮して（1/3）評価する。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス地域論 II フランスの地誌 b	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>フランスの地域および社会を幾つかの主題を通して学ぶことによって、その実態を知ると同時に、地域と社会をめぐる問題について考える。</p> <p>講義の主題と概要はおおよそ以下の通りである。</p> <p>フランスの大都市郊外部などに見られる、経済、生活、社会、住環境などの水準が低下した地域の再生に向けた「都市政策」の取り組みを通して、現代フランスの地域社会について学ぶ。</p> <p>都市の景観と住まいの視点から、フランスの都市を読み解き、その意味について考える。</p> <p>フランスの地域および社会における活動の主体としてのアソシアシオンすなわち非営利団体の制度および実態について学び、その可能性について考える。</p> <p>地域の生活を担う商業の形態の変化という現象がフランスにおいてどのような形で現われ、それに対してどのような取り組みがなされているかを学び、地域と商業形態のあり方について考える。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. フランスの都市政策 1 3. フランスの都市政策 2 4. フランスの都市政策 3 5. フランスの都市政策 4 6. フランスの都市政策 5 7. フランスの都市政策 6 8. 中間のまとめ 9. フランスの都市空間と住まい 1 10. フランスの都市空間と住まい 2 11. フランスのアソシアシオン 1 12. フランスのアソシアシオン 2 13. フランスの地域と商業中心 1 14. フランスの地域と商業中心 2 15. まとめ <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
都市の荒廃地区と都市政策テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは用いない。講義内容に関する資料を配布する。参考文献は授業中に適宜紹介する。</p>		<p>試験またはレポートの結果を主とし（2/3）、出席を考慮して（1/3）評価する。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの歴史 I フランスの歴史 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の概説講義です。古代から現代までの各時代を概観します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 古代 1 3. 古代 2 4. 中世 1 5. 中世 2 6. 中世 3 7. 近世 1 8. 近世 2 9. 近世 3 10. 近世 4 11. 19-20 世紀 1 12. 19-20 世紀 2 13. 19-20 世紀 3 14. 19-20 世紀 4 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献はそのつど教室で指示する。		平常点、まとめテスト	

08年度以降 07年度以前	フランスの歴史 II フランスの歴史 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の具体的なテーマを取り上げて論じます。史料を読んだり、スライドや DVD などを見る時間も設ける予定です。取り上げるテーマや詳細な授業計画は最初のガイダンスで説明します。		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2~5. テーマ 1 6~9. テーマ 2 10~13. テーマ 3 14~15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布。参考文献はそのつど教室で指示する。		平常点、まとめテスト	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済Ⅰ フランスの政治 a	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では国際比較の視点から現代フランスの政治システムの特徴を理解するとともに、フランスのみならず日本を含めた民主主義諸国の政治動向を見る目を養うことを目的とします。</p> <p>初めにフランス革命以降のフランス政治史の大きな流れを整理します。続いて現在の議会や官僚制などの制度の特徴を解説した上で、政治的リーダーシップの行使や街頭デモを含めた実際の政治のダイナミズムへと焦点を合わせていきます。政治システムの検討にあたっては、国際比較（とくに日本とフランスの比較）の視点に立つことで、現代の民主主義諸国の政治のあり方について知的に考察できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. フランス政治史① 3. フランス政治史② 4. 現代フランスの政治システムの概要 5. 半大統領制 6. 議会 7. 官僚制 8. 政党システム① 9. 政党システム② 10. 選挙 11. 政治的リーダーシップ 12. 政策決定過程 13. 社会運動 14. 中央-地方関係 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		中間テストと期末テスト。	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済Ⅱ フランスの政治 b	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では年金や医療保険などのフランスの社会保障制度の仕組みと最近の改革の動向を日本と比較しながら学習します。</p> <p>2006年にフランスはスウェーデンを追い越し世界最大の福祉国家になりました（対GDP比）。公的年金や医療保険などの社会保障制度の改革は政治家にとっても有権者にとっても最大の関心事の一つです。いまや社会保障は政治・経済に関する議論の中心に位置していると言っても過言ではありません。</p> <p>日本も人口の高齢化・政府の財政難・雇用の不安定化などの問題に直面し、社会保障改革が喫緊の課題になっています。</p> <p>そこでこの講義では①まずフランスと日本の社会保障制度を比較することで両者の特徴を明らかにします。②次に両国における社会保障改革をめぐる政治動向について解説します。③最後にフランスや日本で今後どのような社会保障改革が必要なのかについて考察します。</p> <p>講義と試験を通じて、学期の終わりには年金や消費税などのあり方について自分なりの意見を形成できるようになることを目指します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 社会保障とは何か？ 3. 大きな福祉国家（フランス）と小さな福祉国家（日本） 4-5. 年金制度 6-7. 医療保険制度 8-9. 雇用政策（失業・非正規雇用・若者の就職） 10-11. 公的扶助（生活保護） 12-13. 家族政策（子ども手当・保育サービス） 14-15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		中間テストと期末テスト。	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済 I フランスの政治 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムの特徴について学ぶことも有益だと言えるでしょう。本講義は、フランス政治についての基礎的な知識の習得を目的とします。具体的には、現在のフランスの政治システムが形成された歴史的背景を概観した上で、現状の政治制度について学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. フランス革命から第二帝政まで 1 3. フランス革命から第二帝政まで 2 4. 第三共和制からヴィシー政府 1 5. 第三共和制からヴィシー政府 2 6. 第四共和制 1 7. 第四共和制 2 8. 第五共和制の成立 9. 第五共和制下における政権交代 10. 第五共和制の政治制度 1 11. 第五共和制の政治制度 2 12. 第五共和制の政治制度 3 13. 第五共和制の政治制度 4 14. 第五共和制の政治制度 5 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業の際に指示します。		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）	

08年度以降 07年度以前	フランスの政治経済 II フランスの政治 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、第2次大戦後のフランス経済の変遷を歴史的に辿るとともに、フランス経済の特徴を探ることを目的とします。</p> <p>なお、履修者数によっては簡単な発表をしてもらい、フランス経済の特徴についてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 戦後復興と経済近代化 1 3. 戦後復興と経済近代化 2 4. 戦後復興と経済近代化 3 5. EEC 発足とフランス経済の開放 1 6. EEC 発足とフランス経済の開放 2 7. 世界不況とフランス経済 1 8. 世界不況とフランス経済 2 9. フランス経済の現状 1 10. フランス経済の現状 2 11. フランスの工業 1 12. フランスの工業 2 13. フランスの農業 1 14. フランスの農業 2 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
参考文献は授業の際に指示します。		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）とレポート・発表（50%）	

08年度以降 07年度以前	フランス現代思想 I フランスの思想 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業ではサルトルからデリダに至る現代フランスの思想の流れを追っていきます。春学期は、戦後フランス思想に先立つ19世紀ドイツの思想家たち、具体的にはニーチェ、マルクス、フロイトの思想を概観します。</p> <p>今、世界は激しく変貌しつつありますが、世界で起こっている様々な現象を理解するためにも過去の思想、とりわけ今挙げた3人の思想を知ることが必要です。ニーチェは道徳を、マルクスは資本主義を、フロイトはセクシュアリティをそれぞれ分析し、これまでにない次元を開きました。</p> <p>この授業では彼らのテキストの抜粋を読み、私たちの考え方を振り返り、見直すことに取り組みたいと思っています。</p> <p>学生諸君の積極的な参加を望みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 20世紀フランス思想の概観 マルクスの『共産党宣言』を読む1 マルクスの『共産党宣言』を読む2 マルクスの『共産党宣言』を読む3 マルクスの『共産党宣言』を読む4 フロイトにおける「セクシュアリティ理論」1 フロイトにおける「セクシュアリティ理論」2 フロイトにおける「セクシュアリティ理論」3 フロイトにおける「セクシュアリティ理論」4 フロイトにおける「セクシュアリティ理論」5 ニーチェの『ツアラトストラ』1 ニーチェの『ツアラトストラ』2 ニーチェの『ツアラトストラ』3 ハイデガー入門1 ハイデガー入門2 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の際指示します。		平常点と期末レポート	

08年度以降 07年度以前	フランス現代思想 II フランスの思想 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期に勉強した事を基本にして、フランス現代思想を学びます。とくにサルトルの実存主義、50年代後半フランスで盛んになった構造主義、そして構造主義を発展させた、いわゆる「ポスト構造主義」という大きな流れを追っていきます。</p> <p>フランスの現代思想は今後の世界の歴史の中で、ますます重要な役割を果たすことと思われます。というのは、フランスの現代思想家たちは、春学期で取り上げた思想家たちの考えを引き継ぐとともに大きく革新し、来るべき世界がどのようなものなのか、どのようなものであるべきか、という問いに答えているからです。</p> <p>まだ皆さんが考えた事がないだろう現代社会の諸問題と一緒に見つめ、考えていければと思っています。</p> <p>皆さんの積極的な参加を望みます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> サルトルと実存主義 サルトルと実存主義 サルトルと実存主義 ソシュールの言語思想 構造主義—ミシェル・フーコー 構造主義—ロラン・バルト 構造主義—ジャック・ラカン1 構造主義—ジャック・ラカン2 構造主義—ジャック・ラカン3 エマニュエル・レヴィナス1 エマニュエル・レヴィナス2 ジャック・デリダ1 ジャック・デリダ2 ジャック・デリダ3 まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の際指示します。		平常点および期末レポート	

08年度以降	現代フランス論 I	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義では現代フランスにおける医療をめぐる様々な問題について考えていきます。</p> <p>2000年に国連のWHO（世界保健機関）が発表した世界の医療制度パフォーマンス・ランキングでフランスは第1位にランクされました（日本は10位）。</p> <p>とはいえフランスの医療制度に問題がないわけでは決してありません。日本の場合と同様に、様々な問題に直面して厳しい緊張状態に置かれているといった方が正確でしょう。財源問題、医療の質の確保、平等の維持、医療と介護との連携、病院のリストラ問題など枚挙に暇がありません。</p> <p>講義では国際比較の視点に立ちながら（とくに日本・アメリカ・イギリスの例を参照します）、フランスの医療の現状、問題点、その解決策について詳しく検討していきます。映像資料や統計資料を多く利用する予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 現代医療をめぐる諸問題 3. 医療制度の歴史的発展 4. 医療制度の国際比較 フランスの位置づけ 5. なぜいま医療制度改革なのか？ 6-7. 英米における医療制度改革 国家と市場の役割分担 8. 日仏における医療制度改革① 医療費抑制 9. 同② 財源の拡大 10. 同③ 医療の質 11. 同④ 平等なアクセス 12. 同⑤ 高齢者介護 13. 同⑥ 病院のリストラ 14-15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
レジュメを配布します。 参考文献は講義の際に指示します。		小レポートと期末テスト。	

08年度以降	現代フランス論 II	担当者	尾玉 剛士
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義ではフランス社会の様々な不思議な点、より正確には日本と異なる点に着目して、そうした違いがなぜ生じているのかについて比較社会科学的に考えていきます。</p> <p>身近な例では、フランスに行くと歩行者があまり信号を守らないので驚きます。反対に、なぜ日本の歩行者はほとんど車が走っていないような交差点でも信号待ちをしているのでしょうか。ここで「国民性の違い」や「文化の違い」とだけ言うてもあまり説得力がありません。「国民性」や「文化」の中身が説明されていないからです。</p> <p>この講義ではこうしたわかったようなわからないような説明から一歩先に進んで、異なる社会における慣習や制度の違いを合理的かつ説得的に説明する方法について解説します。とりあげる予定のテーマは右の授業計画の通りです。これらのテーマの検討を通じてフランス社会に対する理解が一段と深まるはずで。</p> <p>学期の後半には受講者の皆さんに研究テーマを決めてもらい、成果を発表していただく予定です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 不思議の国フランス？ 2. 比較社会科学の方法論 3. なぜ政教分離をめぐって延々と議論が続くのか 4. なぜいつでもどこでもストに出会うのか 5. なぜ標識がバイリンガル表記なのか 6. なぜマクドナルドを「解体」すると拍手喝采されるのか 7. なぜアメリカを目の敵にするのか 8. なぜ大学生がストライキをするのか 9. なぜ美味しいフォーやクスクスが食べられるのか 10. なぜ消費税率が高いのか 11. なぜ原発大国なのか 12. なぜ極右政党が存在するのか 13. なぜ出生率が高いのか 14-15. まとめとグループでの発表 	
テキスト、参考文献		評価方法	
毎回レジュメを配布しますが、学期の前半は小田中直樹『フランス7つの謎』文春新書、2005年をもとに講義を進めます。		平常点とグループでの発表。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論 I フランス文化・社会各論 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>La francophonie dans l'océan Pacifique sud : Nouvelle-Calédonie, Vanuatu, Wallis et Futuna et Polynésie française.</p> <p>Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas des territoires francophones du Pacifique sud, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines différentes. Le respect de la différence est-il possible ? Est-il souhaitable ? Le cours se concentrera sur le cas de la Nouvelle-Calédonie.</p> <p>Le contenu du cours pourra varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il faut avoir une bonne connaissance du français et de sa grammaire et un grand intérêt pour les questions sociales... même sous le soleil des îles !</p>		<p>1. Introduction générale</p> <p>2-3. Données géographiques de l'océan Pacifique.</p> <p>4-6. Aperçu géographique et économique de la Nouvelle-Calédonie.</p> <p>7-9. Aperçu géographique et économique du Vanuatu.</p> <p>10-11. Aperçu géographique et économique de Wallis et Futuna.</p> <p>12-13. Aperçu géographique et économique de la Polynésie française.</p> <p>14. La question des essais nucléaires en Polynésie française.</p> <p>15. Conclusions du premier semestre.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films. Voir le site internet de l'Université Laval sur la francophonie.		Variable selon le nombre des étudiants : examen ou rapport.	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会各論 II フランス文化・社会各論 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Voir ci-dessus la présentation du cours.</p> <p>Le deuxième semestre est consacré à la Nouvelle-Calédonie et plus spécialement à la coexistence des différentes communautés, dans une approche historique.</p>		<p>1. Bilan du 1^{er} semestre et introduction du second.</p> <p>2. Le peuplement de l'océan Pacifique.</p> <p>3. La découverte par les Européens du Pacifique.</p> <p>4. La colonisation occidentale du Pacifique.</p> <p>5. La découverte de la Nouvelle-Calédonie.</p> <p>6. La société kanake au moment de la découverte.</p> <p>7-8. Les immigrations en Nouvelle-Calédonie.</p> <p>9. Résistance et révoltes des Kanaks.</p> <p>10. La Seconde Guerre mondiale.</p> <p>11. Émancipation juridique des Kanaks.</p> <p>12. Conflits ouverts des années 80.</p> <p>13. Les accords de Matignon et de Nouméa.</p> <p>14. Perspectives d'avenir : l'indépendance ou non ?</p> <p>15. Conclusions</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Polycopiés, internet, extraits de films.		Variable selon le nombre des étudiants : examen ou rapport.	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>このクラスの目的は、</p> <p>(1) 日常表現とはやや異質な、理屈が展開していくような文章の読解力を養うこと、またその種の文章に出てくる語彙に慣れること、</p> <p>(2) フランス社会を理解する様々な入り口を提供する(できれば、それが日本社会も含めた現代世界を理解する入り口になることを希望しますが)こと、</p> <p>の2つです。</p> <p>様々な入り口として、時事的・メディア的、「社会」的、歴史・政治・経済的、哲学・文学芸術的な接近を設定してみます。考える手がかりになるものを何でも読んでみようということになるでしょうか。なお、フランス人による文章だけでなく、外国人のフランス論(フランス語で書かれたもの、翻訳)も読んでみたいと思っています。</p> <p>仏和辞典は必ず持参してください。</p> <p>1 回目の授業で追加的説明を行いますので必ず出席してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。 2. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(1) 3. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(2) 4. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(3) 5. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(4) 6. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(5) 7. 時事的・メディア的な方向から社会を考える文章を読んでみる(6) 8. まとめと復習 9. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(1) 10. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(2) 11. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(3) 12. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(4) 13. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(5) 14. 「社会」的な方向から社会を考える文章を読んでみる(6) 15. まとめと復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはこちらで用意します。テキストのレベルは履修者の語学力によって考えます。</p>		<p>評価は、平常点(クラスの数にもよりますがほぼ毎回「当たる」ようにしたいと思います)と期末テストによって判断します。各 50 パーセントと考えています。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	竹内 久雄
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>基本的に I の続きです。</p> <p>このクラスの目的は、</p> <p>(1) 日常表現とはやや異質な、理屈が展開していくような文章の読解力を養うこと、またその種の文章に出てくる語彙に慣れること、</p> <p>(2) フランス社会を理解する様々な入り口を提供する(できれば、それが日本社会も含めた現代世界を理解する入り口になることを希望しますが)こと、</p> <p>の2つです。</p> <p>様々な入り口として、時事的・メディア的、「社会」的、歴史・政治・経済的、哲学・文学・芸術的な接近を設定してみます。考える手がかりになるものを何でも読んでみようということになるでしょうか。なお、フランス人による文章だけでなく、外国人のフランス論(フランス語で書かれたもの、翻訳)も読んでみたいと思っています。</p> <p>仏和辞典は必ず持参してください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入。 2. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(1) 3. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(2) 4. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(3) 5. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(4) 6. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(5) 7. 歴史・政治・経済的な方向から社会を考える文章を読んでみる(6) 8. まとめと復習 9. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(1) 10. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(2) 11. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(3) 12. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(4) 13. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(5) 14. 哲学・文学・芸術的な方向から社会を考える文章を読んでみる(6) 15. まとめと復習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはこちらで用意します。テキストのレベルは履修者の語学力によって考えます。</p>		<p>評価は、平常点(クラスの数にもよりますがほぼ毎回「当たる」ようにしたいと思います)と期末テストによって判断します。各 50 パーセントと考えています。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅰ フランス文化・社会講読 a	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学ぶ。年間の講義時間を考慮して、春学期に取り上げる遺産は3件程度とし、前年度読んでいないものを取り上げる。</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメントや補足説明などを行う形で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. ブールジュ大聖堂 (1) 3. ブールジュ大聖堂 (2) 4. ブールジュ大聖堂 (3) 5. ブールジュ大聖堂 (4) 6. ブールジュ大聖堂 (まとめ) 7. シャンボールの城と領地 (1) 8. シャンボールの城と領地 (2) 9. シャンボールの城と領地 (3) 10. シャンボールの城と領地 (4) 11. シャンボールの城と領地 (まとめ) 12. ストラスプールのグランド・イル (1) 13. ストラスプールのグランド・イル (2) 14. ストラスプールのグランド・イル (3) 15. ストラスプールのグランド・イル (まとめ) <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果を主とし (60%)、出席および授業中の発表を考慮して (40%) 評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅱ フランス文化・社会講読 b	担当者	鈴木 隆
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、現代に継承されたフランスの歴史性の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とする。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学びます。年間の講義時間を考慮して、秋学期に取り上げる遺産は3件程度とし、前学期および前年度とは異なるものを取り上げる</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられたテキストの部分について予習して発表し、その後で、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明 2. カルカッソンヌ (1) 3. カルカッソンヌ (2) 4. カルカッソンヌ (3) 5. カルカッソンヌ (4) 6. カルカッソンヌ (まとめ) 7. サン・ジャックの路 (1) 8. サン・ジャックの路 (2) 9. サン・ジャックの路 (3) 10. サン・ジャックの路 (4) 11. サン・ジャックの路 (まとめ) 12. リヨンの2千年 (1) 13. リヨンの2千年 (2) 14. リヨンの2千年 (3) 15. リヨンの2千年 (まとめ) <p>以上の授業計画には多少の変更もありうる。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
講読の資料を配布する。参考文献は、講義中に必要に応じて紹介する。		試験の結果を主とし (60%)、出席および授業中の発表を考慮して (40%) 評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅰ フランス文化・社会講読 a	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料も読む予定です。前期は中世から3章ほど選んで読みます。		1. 授業ガイダンス 2～14. 講読 « Le bon roi Dagobert a mis sa culotte à l'envers... » 他 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点、まとめテスト	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読Ⅱ フランス文化・社会講読 b	担当者	藤田 朋久
講義目的、講義概要		授業計画	
フランス史の有名なフレーズやエピソードを集めて、フランスの子供向けに解説した下記の本を読みます。またあわせて他の補足資料も読む予定です。後期は近世から3章ほど選んで読みます。		1. 授業ガイダンス 2～14. 講読 « L'État, c'est moi ! » 他 15. まとめ	
テキスト、参考文献		評価方法	
Antoine Auger et Dimitri Casali, <i>Petites histoires de l'histoire de France</i> , Flammarion, 2007.		平常点、まとめテスト	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>今日の世界を概観するならば、グローバリゼーションの広汎な展開や、各国の政治・経済の相互依存関係の強化が確認されます。さらに、グローバリゼーションという現象は、政府や企業の活動のみならず、われわれの日常生活をも大きく左右する問題となってきました。</p> <p>本講義では、フランス語のテキストを通して、グローバリゼーションという世界的な流れの中で、フランス社会においてどのような反応が生じているかを学びます。春学期は、主に、グローバリゼーションに対するフランス国民の不安に関するテキストを読み進めます。</p> <p>本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読み、文章の要旨を把握する力を鍛えることにあります。予習段階では、最低限、テキストにざっと目を通してください。</p> <p>【注意】辞書は忘れずに持ってくること。 また、授業中は担当者を決めずにランダムに翻訳を担当してもらいます。これが評価の30%を占めるので、出席回数が少ないと単位を取るのが難しくなります。</p>		<p>1. 講義の概要</p> <p>2-4. グローバリゼーションに対する最初の抵抗</p> <p>5-6. 2001年ジェノバ・サミット</p> <p>7-8. 企業に対する不信感</p> <p>9-10. 企業移転の恐怖</p> <p>11-13. EUとグローバリゼーション</p> <p>14. フランスの世論の特徴</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		授業中の翻訳の担当（30%）、複数回の小テスト（70%）で評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期と同様にグローバリゼーションに関するテキストを読みます。内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。</p> <p>秋学期は、主としてフランスにおける政党・圧力団体のグローバリゼーションに対する考え方に関するテキストを講読します。</p> <p>【注意】辞書は忘れずに持ってくること。 また、授業中は担当者を決めずにランダムに翻訳を担当してもらいます。これが評価の30%を占めるので、出席回数が少ないと単位を取るのが難しくなります。</p>		<p>1. 講義の概要</p> <p>2-4. 反グローバリゼーション</p> <p>5-6. 「もうひとつのグローバリゼーション」の追求</p> <p>7-10. グローバリゼーションの改良</p> <p>11-12. 他国から見たフランスの反応</p> <p>13-14. フランス社会モデルの危機</p> <p>15. まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント配布		授業中の翻訳の担当（30%）、複数回の小テスト（70%）で評価します。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講読ではベルギーのベストセラー作家アメリー・ノトンプAmélie Nothombの日本を舞台にした小説「畏れとおのきStupeur et tremblement」を読みます。この小説は1999年度アカデミー・フランセーズ小説大賞を受賞しています。1990年代日本の総合商社に通訳として就職した主人公は、ヨーロッパとは全く異なる考え方をする会社の上司の振る舞いに驚かされながらも、幼年時代を過ごした日本への愛から、なんとか最後まで頑張り抜こうとします。しかし...</p> <p>この小説には、私たちがあまり自覚していない日本社会の掟と、ヨーロッパ的な考え方の相克が描かれており、私たちにも、とても面白いです。また、映画にもなっているので、両方を比較したいと思っています。</p> <p>授業では、順番に当てるので、当たった人は欠席しないこと。</p>		<p>1 ページずつ訳してもらい、比較的早いペースで全体を読みすすめたい。</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回～第14回：小説を読み進めます。映画も見ます（DVD使用）。春学期で前半を読みます。 第15回：まとめと討議</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の際指示します。		平常点およびレポート	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会講読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	若森 栄樹
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期の続きです。		<p>春学期と同じ</p> <p>第1回：ガイダンス 第2回～第14回：小説を読み進めます。映画も見ます（DVD使用）。ラストまで読みます。 第15回：まとめと討議</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業の際指示します。		平常点およびレポート	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会購読 I フランス文化・社会講読 a	担当者	M. デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours, destiné aux étudiants de deuxième et de troisième année, vise principalement à développer les compétences de l'étudiant pour expliquer et comprendre un texte court en français d'un niveau relativement facile. Nous utiliserons des textes français qui montrent essentiellement le mode de vie quotidien et les problèmes sociaux que peuvent connaître les jeunes français actuellement, qu'ils soient étudiants ou non. Ce cours peut donc donner aux étudiants japonais une image concrète de leurs homologues français et leur faire découvrir les conditions de vie en France.</p> <p>このクラスは3・4年生向けで、比較的簡単で短めのテキストを理解し、説明できるようになることを主な目標とします。テキストは現代のフランスの学生やその他若者が直面している社会問題や日常生活について書かれたものを使用します。この授業を通して日本の学生達には同じ年代のフランス人達について具体的なイメージを持ち、フランスでの生活の状況を発見してもらいたいと思っています。</p>		<p>Au cours du premier semestre, nous travaillerons sur des textes courts. Nous utiliserons, bien entendu, des articles de journaux simples comme ceux provenant de sources telles que le « Journal des enfants », « 20 minutes », « Métro », « Le Parisien »... Mais ce cours propose aussi de découvrir le mode de vie et les problèmes des jeunes Français par des textes issus d'ouvrages, de discours de blogs sur Internet, de dialogues de films, de poèmes, de paroles de chansons, de revues de mode ou même de publicités... Nous découvrirons un nouveau texte à chaque cours.</p> <p>前期は短いテキストを使用します。子供向けの新聞や街で無料配布されている新聞や地方紙など簡単な新聞の記事が読んでいきませんが、テキストやインターネットのブログのやりとり、映画のダイアログ、詩、歌の歌詞、ファッション雑誌や広告なども取り扱ってフランスの若者が抱えている問題や生活状況について理解を深めたいと思います。テキストは毎回違うものを使います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Sources multiples d'articles de journaux, de dialogues de films, de musiques, de publicités... 新聞の記事や映画のダイアログ、歌や広告など、様々な資料を使用します。		評価方法 : L'évaluation se déroulera en classe, par le contrôle continu. Nous demanderons de rendre trois fois les textes préparés à la maison et nous évaluerons aussi la participation et la lecture en classe. 授業への出席と3回の宿題によって評価。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会購読 II フランス文化・社会講読 b	担当者	M. デルヴロワ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Toujours pour un niveau de troisième et de quatrième année, nous nous baserons sur des sources sociologiques pour saisir face à quels problèmes se trouvent confrontés les jeunes dans la société française. Nous essaierons de faire des explications de paragraphes, de reformuler et de résumer les idées, de discuter sur les points de grammaire et les expressions rencontrées... Ce travail nous entrainera ainsi à tirer l'essentiel de l'information d'un passage par la lecture et à répondre à des questions de compréhension de texte. En définitive, l'étudiant sera encouragé à faire des comparaisons avec la situation des jeunes Japonais.</p> <p>このクラスは3・4年生向けで、フランスの社会で若者達がどんな問題に直面しているか理解するため、社会的な資料に基づいて学んでいきます。最近の資料を購読しながら、段落ごとに説明ができるように、また文章の書き換えや要約、大切な文法のポイント、新しい表現などを勉強します。このようにして各場面の重要な情報を引き出し、テキストを理解するための問いに答える練習をします。最終的には、学生のみなさんは日本の若者の状況と大いに比較ができるようになるでしょう。</p>		<p>Au cours du second semestre, nous utiliserons un texte assez long ou un chapitre d'un ouvrage sociologique qui traite encore des jeunes Français. Il sera étudié sur plusieurs semaines de manière à pouvoir se concentrer sur une ou deux sources. Nous choisirons alors des ouvrages ou des chapitres aisés à la lecture et à la compréhension pour un niveau moyen en français, correspondant au niveau B1 du cadre commun de référence.</p> <p>後期では長めのテキスト、または社会学の本の中からフランスの若者に関連した章を使用します。1つか2つの資料を集中的に数週間かけて学んでいきます。購読向けには易しい本か章を、読解向けにはB1レベル相当の中級のフランス語のものを取り扱います。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Chapitres ou extraits d'ouvrages de sociologie. 社会学の資料からの章や抜粋を使用します。		評価方法 : L'évaluation se déroulera en classe, par le contrôle continu. Nous demanderons de rendre trois fois les textes préparés à la maison et nous évaluerons aussi la participation et la lecture en classe. 授業への出席と3回の宿題によって評価。	

交 流 文 化 論

(09年度以降入学者)

09年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サステイナブル・ツーリズム論」の講義を行います。</p> <p>近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。</p> <p>本講義は、「サステイナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローバルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えたいきます。</p> <p>なお、サステイナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサステイナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. マスツーリズムとサステイナブル・ツーリズム 3. 開発と持続可能性概念 4. 開発と持続可能性概念（続き） 5. 地球環境問題 6. 自然・環境思想（国立公園・ナショナルトラスト・世界遺産） 7. エコツーリズム（歴史と概説） 8. エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例） 9. エコミュージアム（歴史と概説） 10. LOHAS（ロハス）と観光 11. 欧米のグリーンツーリズム 12. 日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開） 13. グリーンツーリズムの二面性と矛盾 14. アクセシブル観光（ユニバーサル交流） 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

09年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的</p> <p>ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。</p> <p>講義概要</p> <p>旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。</p> <p>旅行業の発展経緯と機能役割、商品形態等について重点的に触れ、又、IT時代における旅行ビジネスの今日的課題及び将来像についても考察する。</p> <p>宿泊産業では、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホテル業のサービスの実態についても学習する。</p> <p>講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要・旅行市場の現状 2. 旅行業の機能・役割 3. 旅行業の歩み① 4. 旅行業の歩み② 5. 旅行業の商品と形態 6. 旅行業法と消費者保護 7. 旅行業界の現状と課題 8. 旅行業の今後 9. ホテル業とは・ホテル業の分類 10. 欧米におけるホテル業の歴史 11. 日本におけるホテル業の歴史 12. ホテル業の動向 13. ホテルの組織と経営特性 14. ホテル業界のホスピタリティー 15. ホテル業の今後・講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。</p> <p>参考文献：適宜指示する。</p>		<p>試験結果に基づいて判断する。</p>	

09年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	横村 出
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。</p> <p>文章の難しさは、単に経験や訓練を積み上げれば上達するものではないということだ。書くことの根底には、個人としての確たる「ものの見方」が不可欠である。そこには、書き手の全人格が投影されると言ってもいい。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。これらの心構えを理解し、書くための基礎的な力をつけてもらう。</p> <p>新聞業界の現状についても言及する。新聞が紙からデジタル化されても、文字情報の重要性は変わらない。刻々と発信される記事の事実と背景を読み解き、正しく把握するための力を養ってほしい。</p> <p>講義では、文章力を高めるために実践的に参加をしてもらう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。</p> <p>受講にあたって新聞は日々必読。将来、メディアや広報分野での仕事を選択肢に入れる学生の参加を希望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 新聞報道の歴史と変遷 3. ジャーナリズムと「ものの見方」 4. ジャーナリスト列伝 5. 新聞記事（1）構成と執筆手法概論 6. 新聞記事（2）取材とインタビュー法 7. 新聞記事（3）事実と真実の表現法 8. 新聞記事（4）論説・社説とは 9. 新聞記事（5）編集のプロセス 10. 新聞記事（6）国際取材の方法 11. ルポルタージュ（1）題材 12. ルポルタージュ（2）取材 13. ルポルタージュ（3）発表 14. ルポルタージュ（4）評価 15. メディアの未来を考える 	
テキスト、参考文献		評価方法	
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。		課題ルポルタージュなどの成果（70%）と出席・質疑応答など授業中の実績（30%）で評価する。	

09年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 人やモノ、文化の移動、交流を担う航空産業における世界的な規制緩和の潮流を検証しながら、日本の空、アジアの空のこれからを考察する。又、航空を通して見えるホスピタリティ、国籍を超える人間活動、地球環境への取り組みを広い視野から考える。</p> <p>講義概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済のグローバル、ボーダレス化を支え、牽引する航空産業の構造を検証し、これからの空の仕組み、動向を考える基礎を学ぶ。 ・ 米のオープンスカイ戦略、EUの単一航空市場を検証し、規制緩和の世界的な動きを捉える。 ・ 国籍規制の壁を超えるグローバル・アライアンスの動向、戦略を学ぶ。 ・ 航空のサービスを通して見えてくるホスピタリティを捉え、これからのサービスのあり方、対抗するLCCの低運賃、その先を考察する。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. 日本の空で起きていること、航空産業の枠組み 3. 民間航空の史的考察と、シカゴ・バミューダ体制 4. 米のオープンスカイ戦略とLCC、CRS、H&S 5. EUの戦略；単一航空市場、“Community Air Carrier” 6. ディスカッション；「LCCとLegacy Carrierの今後」 7. グローバル・アライアンス（1）誕生の背景、動向 8. グローバル・アライアンス（2）増収、世界戦略 9. 日本の航空のこれから 10. 航空のサービスとホスピタリティ 11. ホスピタリティvs LCCの低運賃 12. 航空と観光 13. 航空とCSR、地球環境 14. 北東アジア共通航空市場を考える 15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点 <p>* 専門家の講話も検討する * 上記関連で、講義の順番など事前に通知の上、一部変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：ANA総研『航空産業入門』（東洋経済新報） 参考文献：伊藤元重他『日本の空を問う』（日経出版社）、 山路顕『日本から発信するホスピタリティ』（ていくおふ）、 ANA総研『エアライン・オペレーション入門』（ぎょうせい）他</p>		<p>期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢など総合的に評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>グローバルとローカルなものとの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の1つです。</p> <p>近年、alternative（もう1つの）という言葉が時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう1つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。</p> <p>この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民に関するものを中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。</p> <p>開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民の権利、構造的暴力と民衆、NGOや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。</p> <p>（参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・NGO』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバークホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 豊かさの指標：開発とは何か、貧困とは何か 3. 近代化と文化変容（ビデオ『懐かしい未来』） 4. 貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 5. 教育・学び・文化 6. ジェンダーとフェミニズム 7. 宗教と社会開発NGO 8. ローカルメディアとアイデンティティ戦略 9. 開発ワーカーと異文化適応※教室内ワークショップ 10. 開発は自分たちの手で（ビデオ『グラミン銀行』予定） 11. 新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 12. 巨大開発計画と地域住民・NGO 13. 貧者と人間の尊厳（ビデオ『セバスチャン・サルガド（「アフリカ」等で知られる写真家）』予定） 14. 日本の開発経験：生活改善運動と一村一品運動から 15. まとめ、試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展とNGO』勁草書房。※DUO等で各自購入してください</p> <p>（参考文献）上欄を参照。</p>		<p>期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。</p>	

09年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。</p> <p>一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。</p> <p>このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思えます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 食の文化を見る眼：文化とは何か 3. 食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） 4. 私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに 5. 遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） 6. マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 7. ナショナルリズムと食：伝統の形成と思い込み 8. 食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える 9. 食育と学校 10. コーヒーのグローバルヒストリー 11. フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 12. イタリアのスローフード、米国のシビック・アグリカルチャー、日本の地産地消 13. 地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助 14. 食の「再ローカル化」(re-localization) ※ビデオ『未来の食卓』（予定） 15. 講義のまとめ、試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。		期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。</p> <p>本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という3つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。</p> <p>受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌 1 3. グローバリゼーションの民族誌 2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学—情報資本主義と観光 7. メディアと観光—「楽園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光—「神々の島」パリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状—カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム—タイの事例 12. 少数民族と観光—タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在 15. まとめ・予備日 <p>(なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。随時、文献リストを配布する。		授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。</p> <p>講義概要 観光を、疑似イベント、イメージ、メディアの視点から考察し、観光現象を多面的に理解する。</p> <p>併せて、貧困ツーリズム、戦場ツーリズムに見る観光形態の多様性や、バリ島の観光開発の光と影に触れ、文化の変容についても考える。又、ディズニーランドを模型文化としての視点より考察し観光現象の多様性を学ぶ。</p> <p>近年若者の海外旅行離れが懸念されているが、その現象を観光メディアの視点から考えてみたい。</p> <p>又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にした</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. 文化への新しいアプローチとしての観光 3. 観光の誕生・疑似イベントとしての観光 4. メディアと観光・イメージの形成とメディア 5. バリ島観光開発の植民地政策と文化の流れ 6. 楽園バリ島誕生の形成と文化の流れ 7. 観光文化のグローカル化と商品化 8. 文化観光と観光行動（疑似体験としての観光旅行） 9. 疑似体験としての貧困・戦場ツーリズム 10. 文化の商品化と観光文化・観光芸術 11. 模型文化とディズニーランド 12. ディズニー化とマクドナルド化 13. 観光メディアと旅行市場形成 14. 観光メディアと海外旅行 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『観光文化学』（山下晋司編）新曜社 その他は適宜指示する。</p>		<p>試験結果に基づいて評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤 充信
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。</p> <p>講義概要 国際会議、博覧会やイベントとは何か、その歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。</p> <p>講義では、国際会議、博覧会、イベントを中心に観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。</p> <p>履修希望者は2012年度JATA旅博（9月21日～23日）を必ず見学しておいて下さい</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要 2. イベント・コンベンションの発生と発展 3. イベント・コンベンションとは① 4. イベント・コンベンションとは② 5. 世界と日本のイベント・コンベンション動向 6. イベント・コンベンションの仕組みと実務① 7. イベント・コンベンションの仕組みと実務② 8. イベント・コンベンション産業① 9. イベント・コンベンション産業② 10. イベント・コンベンションの施設と付帯設備 11. コンベンション・ビューローの役割と機能 12. イベント・コンベンションの推進機関 13. イベント・コンベンションの課題と展望① 14. イベント・コンベンションの課題と展望② 15. 講義のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：『イベント&コンベンション概論』（JTB能力開発）その他は適宜指示する。</p>		<p>試験結果に基づいて判断する。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ツーリズムの持つ、社会（地域、国、世界）や政治、経済との係り、これまでの“お上”主導のツーリズム政策の問題を検証し、“観光立国”のあるべき姿、方向を考察する。</p> <p>講義概要 ・明治期、不平等条約改正の一助として用いられたインバウンド・ツーリズム政策、貿易収支のバランス材だったツーリズム、地域や景観破壊に結びつくツーリズムの商業的側面を検証しながら、ツーリズムのあり方を政策の観点から点検する。 ・日本人の豊かな感性、自然観に根差したツーリズムの姿を探求する。 ・以上の文脈の中で「若者の旅離れ」や観光立国推進基本政策など現代的課題について考察する。</p> <p>(*) ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. ツーリズム政策の位置づけ 3. 日本の観光政策の史的考察 4. 観光の経済力、規模、影響力 5. アウトバウンド・ツーリズム政策 6. インバウンド・ツーリズム政策の検証、国際比較 7. 「若者の旅離れ」とツーリズム政策 8. ディスカッション；「若者の旅離れ」 9. 貿易立国から観光立国へ 10. 「観光立国」を考える 11. ツーリズム政策の課題（1）；ツーリズム行政 12. ツーリズム政策の課題（2）；景観を守る 13. エコロジーを考える 14. ツーリズム政策論 15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点 <p>(*) 専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：レジュメを配布する 参考文献：鈴木茂他『観光立国と地域観光政策』（晃洋書房）、川村晃生他『崩れゆく景観』（慶応大学出版）、その他授業の中で紹介する。</p>		<p>期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	山路 顕
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的 ツーリズム政策論を国レベルの視点で捉え、ツーリズム・マネジメント論では産業レベルでの取り組みや政策を捉える。景観や地域の破壊に繋がる近視眼的な商業主義、大量生産・大量消費型のツーリズムから脱し、自然や景観、地域を守ることも視野に入れたツーリズム・マネジメントのあるべき姿を考察する。</p> <p>講義概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観、地域環境、自然の破壊に繋がる儲け第一主義のツーリズム運営のあり方を検証し、景観や自然と共に発展するツーリズム産業のあり方を考える。 ・インターネットの普及の下での旅行会社離れ、若者の旅行離れの実体を通してツーリズム産業の今、これからの探求する。 ・「和」、日本人の感性が生み出すツーリズムの形、「着地型観光」、体験型の観光に目をむけ、これからのツーリズム・マネジメントを考える。 <p>(*) ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション；講義内容、進め方、成績評価について 2. 観光産業の構造と観光の要素 3. 観光の経済波及効果 4. 観光産業の規模と観光収支 5. 縮小する旅行業の課題 6. 宿泊産業；衰退する日本旅館のマネジメント 7. ディスカッション；「和 - 日本旅館を救済する」 8. 航空産業とツーリズム 9. ホスピタリティとツーリズム 10. ツーリズム・マネジメントから見える日本の課題 11. 着地型観光；マスツーリズムからの脱却 12. 自然保護とツーリズム（1）；エコツーリズム 13. 自然保護とツーリズム（2）；景観法、テーマパーク 14. ツーリズム・マネジメント；既成を超える 15. 講義全体のまとめ、夫々の到達点 <p>(*) 専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。 事前に通知する。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：レジュメを配布する 参考文献：横山秀司『観光のための環境景観学』（古今書院）、尾家建生他『着地型観光』（学芸出版）、その他授業の中で紹介する</p>		<p>期末試験（70％）に、出席状況、授業でのコメント・シートの内容、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。</p>	

09年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【講義目的】 表象(representation)と文化の関係を、「他者の展示」という文脈から考察する。</p> <p>【講義概要】 テキストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客である Stuart Hall が、イギリスの Open University のために編纂した、<i>Representation: Cultural Representations and Signifying Practices</i> (London: Sage, 1997)から抜粋(pp.153-222)を用いる。 テキストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーすることもできる。そうでない場合は、アマゾン等で購入すること。</p>		<p>1-2 (2.2 What is a museum?) 初回、2回目では教科書の155~160ページを扱う。章末のREADING A も必ず読んでおくこと。履修登録が済んでいない学生でも、この部分の予習をしていなければ、次回以降の授業への参加は認めない。(単位は認定されない。)</p> <p>3-4 教科書の160~167ページ</p> <p>5-9 教科書の168~184ページ</p> <p>10-14 表象とパフォーマンスの関係を、他のテキストも参照しながらディスカッションしていく。</p> <p>15 まとめ</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記のほかは、授業中に指示する。		授業中のディスカッション、発表、期末の課題。	

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	高橋 利男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この講義の目的は、「ツーリズム」と「メディア」の新しい動向について学習するとともに、「両者の係わり方」について考察することです。</p> <p>講義内容としては、新聞・業界紙等のメディアを通して、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、企業の広報・広告、メディア販売、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。</p> <p>地域観光推進の事例、及び、海外旅行、国内旅行、訪日旅行、新しいツーリズムの各分野等にわたる事例を幅広く取り上げます。また、代表的な世界遺産についても学習します。</p> <p>「グループ討議」、「テーマレポート」及び「プレゼン発表」を実践することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 多様化するメディア(1) 3. 多様化するメディア(2) 4. ツーリズムの新たな動向(1) 5. ツーリズムの新たな動向(2) 6. 進化するマーケティング(1) 7. 進化するマーケティング(2) 8. 観光誘致策(1) 9. 観光誘致策(2) 10. メディア販売(1) 11. メディア販売(2) 12. 企業広報(1) 13. 企業広報(2) 14. 旅行業法の枠組み 15. 世界遺産セレクト 10 (日次の順序は前後します) 	
テキスト、参考文献		評価方法	
新聞・業界紙等の記事コピー等		評価方法：期末定期試験（約 50%）＋平常授業における課題レポート等（約 50%）＝100 点満点	

09年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。</p> <p>まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょう。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのNGO活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。</p> <p>教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 地域とは何か、発展とは何か 3. 住民参加の意義と多義性 4. 事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ 5. 組織・制度化、学習プロセス：山形県の事例 6. 地域づくりにおけるキーパーソン：兵庫県の事例 7. 共益から公益の創出へ：NYと東京の事例 8. ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』 9. 地域づくりとまなごしの多様性：島根県の事例 10. 開発とコミュニケーション：インドネシア NGO 援助の事例 <ol style="list-style-type: none"> 11. ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』 12. ソーシャル・キャピタル 13. (予定)つながりと居場所の構築：大阪の事例 14. まとめ：まちづくりは人づくり 15. 試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>(テキスト) 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO等で各自購入してください</p>		<p>期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。</p>	

09年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野 収
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の<u>越境現象の実際を知る</u>こと、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った<u>複眼的な視点</u>から、文化・社会・政治における諸現象を<u>考えられるようになる</u>こと、の3点です。</p> <p>21世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。</p> <p>関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 社会学とはどのような学問か 3. 国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは 4. 国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア 5. 国境・国民概念②：知られざる漂泊民サンカの末路 6. グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム 7. グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 8. グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 9. 国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 10. 国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 11. 中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） 12. アイデンティティについて 13. 民際協力としての自治体国際協力 14. 講義全体のまとめ 15. 試験対策 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリス鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?!』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社</p>		<p>期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。</p>	

09年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永 和博
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。</p> <p>オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。</p> <p>なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映（ジャマイカの観光開発） 4. 場所性の商品化—アマンリゾートの戦略 5. 環境主義の商品化—エコリゾート 6. 世界遺産と観光 1—ラオス・ルアンパバンの事例 7. 世界遺産と観光 2—中国・麗江の事例 8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状） 9. 先住民と観光—北米イヌイットの事例 10. 先住民と開発—開発的遭遇 11. 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光—高知県四万十川流域を事例として 15. ダーク・ツーリズムの現状と可能性—西アフリカの事例から <p>（なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
特に指定しない。		授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。4回以上の欠席で単位認定の条件を失う。	

2012年度

外国語学部共通科目シラバス

(2003年度以降入学者用)

03年度以降	総合講座（EUの歴史と現状 1）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。</p> <p>地域統合の歴史的前例としてのEUについて学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、今日の日本と諸外国の関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 1 3. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 2 4. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 3 5. 第2次大戦と欧州統合 6. 戦後復興と欧州統合 1 7. 戦後復興と欧州統合 2 8. ECSCの成立 1 9. ECSCの成立 2 10. EECの成立 1 11. EECの成立 2 12. EECの定着期 1 13. EECの定着期 2 14. EECの定着期 3 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）</p>	

03年度以降	総合講座（EUの歴史と現状 2）	担当者	廣田 愛理
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EUの歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要 2. 通貨統合 1 3. 通貨統合 2 4. 通貨統合 3 5. マーストリヒト条約以降のEU1 6. マーストリヒト条約以降のEU2 7. EUの制度 1 8. EUの制度 2 9. EUの政策 1 10. EUの政策 2 11. 加盟国とEU1 12. 加盟国とEU2 13. 加盟国とEU3 14. EUの現在の課題 15. まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポート（50%）</p>	

03年度以降	総合講座（性と芸術）	担当者	コーディネーター 谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>春学期の総合講座は、「性と芸術」というテーマによるリレー講義です。</p> <p>「ジェンダー」「セクシュアリティ」「エロス」等をキーワードにした場合、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、その他の国の、たとえばどんな芸術作品がどんなふうに浮かび上がってくるのか。どのような問題意識があり、どのような背景があったのか。そこには、どんな表現、抵抗、当惑、禁忌、偏見、検閲、欺瞞、挑戦があったのか。そして、それらの作品を受容する現代の私たちには、いかなる態度が可能なのか。</p> <p>時代も国も異なるさまざまな作品に触れながら、「芸術」と「性」をめぐる多様な視点を手に入れてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 谷口亜沙子（フランス語学科）：初めに－性と芸術 2. 原成吉（英語学科）：アメリカ詩にみるホモセクシュアリティ－アレン・ギンズバーグを中心に 3. 若森栄樹（フランス語学科）：フランス文学とセクシュアリティ 4. 前沢浩子（英語学科）：「恋」か「友情」か－Shakespeareの男たち 5. 片山亜紀（英語学科）：19-20世紀イギリスの同性愛文学 6. 一條由紀（早稲田大学非常勤講師）：少年愛と吸血鬼－『マルドロールの歌』を中心に 7. 江花輝昭（フランス語学科）：18世紀フランス文学に見る男と女 8. 柿田秀樹（英語学科）：絵画の視覚論 9. 上野直子（英語学科）：フェミニスト文学批評入門 10. 渡部重美（ドイツ語学科）：グリム童話の男の子と女の子 11. 青山愛香（ドイツ語学科）：アダムとイブ－北方世界におけるヌード（Akt）の誕生 12. 下川浩（ドイツ語学科）：なぜ不倫小説が多いのか？ 13. 前田直子（ドイツ語学科非常勤講師）：ドイツの移民女性たち 14. 谷口亜沙子：ユディットとルクレチア－女性の表象を読む 15. 谷口亜沙子：総論 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に提示されます。		出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。	

03年度以降	総合講座（神は細部に宿る）	担当者	コーディネーター 谷口 亜沙子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>秋学期の総合講座は、「神は細部に宿る」という言葉から連想されるものならどんなテーマでも結構です、という呼びかけに応じてくださった多彩な講師陣によるリレー講座です。</p> <p>「細部」や「具体」への注目が真理の発見や手ごたえのある喜びにつながるという例や、「傲候」や「めだたないもの」への注意深さが全体の理解や新しい変化の鍵となることがあるというお話を、様々な分野で聞くことができれば、というのが当初の構想でした。</p> <p>さて、文学、思想、言語学、美術、歴史、人類学、精神医学、宗教、神話、社会、都市、政治、教育、コミュニケーション学などにおいて、一体どんな「神」と「細部」が登場するのか――？</p> <p>「神は細部に宿る」という言葉を、ひとつの方法論あるいは問いかけとして身に持っていることによって、目の前の世界や時間にどんな変化が起こるのかを体験してみてください。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 谷口亜沙子：初めに－シャーロック・ホームズに倣って 2. 田村毅（フランス語学科）：一編の詩から詩人とその時代の宗教思想を読み解く 3. 工藤達也（ドイツ語学科）：ヴァルター・ベンヤミンのモノドロロジーと歴史について 4. 安井美代子（英語学科）：神の設計－言語の単純性と無限性 5. 辻田麻里（ドイツ語学科）：メタファーに聞く人間の心 6. 工藤和宏（英語学科）：世界を変える大学生たち 7. 佐野康子（英語学科）：「ダーウィンの箱庭」－タンザニアから世界へ 8. 日野克美（交流文化）：地名の不思議－モントリオールの街路名 9. 須永和博（交流文化）：＜周辺＞という「細部」－寄せ場と貧困の人類学 10. 佐藤唯行（英語学科）：ユダヤ教の成立－613もの戒律 11. 下川浩（ドイツ語学科）：神と仏と愛と 12. A.ゾーリンジャー（英語学科）：Utsushi: The Art of Copying（英語による講義） 13. 青山愛香（ドイツ語学科）：神は細部に宿る－ファン・アイク兄弟の『ゲントの祭壇画』（1432年） 14. 鈴木隆（フランス語学科）：細部に宿る都市空間の秩序 15. 谷口亜沙子：総論－詩の生まれる瞬間 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中に提示されます。		出席状況と筆記試験。 各回の終わりにコメントペーパーを提出してもらいます。	

03年度以降	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、(1) コンピュータと情報処理に関する基礎知識 (2) コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み (3) コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の概要と目標、情報科学とは 2. データ表現、基数変換、論理演算 3. コンピュータの構成要素 4. ソフトウェアの役割、体系と種類 5. オペレーティングシステム (OS) 6. プログラム言語 7. データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木 8. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9. コンピュータによる言語情報処理技術 (1) 10. コンピュータによる言語情報処理技術 (2) 11. 機械翻訳システムの演習 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 授業のまとめ 15. 授業のまとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (情報処理演習)」の各科目、および[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 英語)	担当者	内田 富男
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[入門] 情報科学各論 (情報処理演習 ユーロッパ言語)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的: この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習(総合)と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論(情報処理演習)」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・PCの基本操作 2. OSとOfficeの基礎 3. Word(1) 4. Word(2) 5. Word(3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel(1) 9. Excel(2) 10. Excel(3) 11. PowerPoint(1) 12. PowerPoint(2) 13. PowerPoint(3) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション) (中級 プレゼンテーション) (中級 万能ツールとしての Excel) (中級 表計算応用 1)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション) (中級 プレゼンテーション) (中級 万能ツールとしての Excel) (中級 表計算応用 1)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(1) 9. マクロの利用(2) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (プレゼンテーション中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件: 2008年度以前に「情報科学各論 (初級 表計算入門) (初級 プレゼンテーション入門) (中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者数や学習状況によって変更することがある</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件: 2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Word 中級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要: この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件: 2008 年度に「情報科学各論 (中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する可能性がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

08年度以降	[応用] 情報科学各論 (Office 中級)	担当者	松山 恵美子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるため、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する可能性がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ <p>受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		授業時に説明する。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 1）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う。われわれ日本人が話す、あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり、ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる。たとえば「流暢さ」、「使用する単語の種類」、「使用する文法の複雑さ」、「正確さ」などである。この授業は、これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする。それにより、自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり、将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は、生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになることを目指す。<u>英語学習に強い興味関心がある人、教職を目指す人</u>に適した内容と考える。</p> <p>【概要】 ごく基本的な言語学の知識の講義から始め、その後は 1 人 1 台のコンピューターを使い、演習を中心に授業を進める。自分で学習者言語データを分析し結果をレポートにまとめることも課題となる。コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが、授業を通して学習することも十分可能。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 【ガイダンス】 言語の基本 (1) : 品詞 言語の基本 (2) : 形態素、単語、句、節 学習者言語の分析：語彙力とは何か (1) 学習者言語の分析：語彙力とは何か (2) 学習者言語の分析：語彙力とは何か (3) 学習者言語の分析：文法力とは何か (1) 学習者言語の分析：文法力とは何か (2) 学習者言語の分析：文法力とは何か (3) 学習者言語の分析：流暢さとは何か (1) 学習者言語の分析：流暢さとは何か (2) 学習者言語の分析：流暢さとは何か (3) 最終レポート準備 (1) 最終レポート準備 (2) 【まとめ】 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理 2）	担当者	羽山 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>【目的】 春学期に引き続き、学習者言語の分析を行う。それにより、英語学習を進める上で直面する困難点を、具体的な数量的に把握する視点や分析方法を身につける。</p> <p>【概要】 春学期の内容を総合的に復習し、それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める。そのため、春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい。秋学期から履修する場合は、言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。</p> <p>授業においては、実際に学習者言語のデータ収集を行い、その分析を進めていく。受講人数によって、グループ活動または個人活動になるが、受講生の作業、演習、発表が中心になる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 【ガイダンス】 学習者言語の分析の視点 (1) : 概要 学習者言語の分析の視点 (2) : 流暢さ 学習者言語の分析の視点 (3) : 語彙力 学習者言語の分析の視点 (4) : 文法力 学習者言語の分析の視点 (5) : 正確性 データ収集と学習者コーパスの作成 (1) データ収集と学習者コーパスの作成 (2) 学習者コーパスの加工 : tagging (1) 学習者コーパスの加工 : tagging (2) 分析 (1) 分析 (2) プレゼンテーション (1) プレゼンテーション (2) 【まとめ】 	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する		出席+授業活動への参加度+プレゼンテーションにより評価する。欠席の場合でも必ず課題を提出すること。	

03年度以降	情報科学各論（言語情報処理1）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）</p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ていたとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6 Excel 関数(論理関数を中心に) 7 Excel 関数のネスト(1) 8 Excel 関数のネスト(2) 9 Excel 関数のネスト(3) 10 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 11 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 12 データベース上のデータの蓄積方法 13 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 14 データベースの活用 15 まとめと演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降	情報科学各論（言語情報処理2）	担当者	吉成 雄一郎
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 講義のガイダンス：コーパスとその応用 2 Access 上にデータを格納 3 Access のデータを引き出して Excel で分析 4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。 8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9 品詞の使われ方と英文の特徴 10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ 11 語彙の出現情報から何を読み取るか(1) 12 語彙の出現情報から何を読み取るか(2) 13 語彙の出現情報から何を読み取るか(3) 14 最先端のコーパスの現状：体験アクセス 15 まとめと演習 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (http://www.yuchan.com/~gengojoho/) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

08年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

08年度以降	[HTML] 情報科学各論 (HTML 初級)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW (World Wide Web) における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language) を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論 (HTML 入門) (HTML 応用 1) (HTML 正しく伝えるために) (HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論 (HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成 テキスト 8. ホームページの作成 イメージ 9. ホームページの作成 リンク 10. ホームページの作成 テーブル 11. ホームページの作成 その他 12. ホームページの作成 完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降	情報科学各論 (HTML 中級)	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人 (FTP の理解を含む) を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習 (1) 3 HTML と FTP の復習 (2) 4 インタラクティブなページ (HTML と CGI) 5 プログラミングの基礎知識 6 JavaScript (1) 7 JavaScript (2) 8 JavaScript (3) 9 JavaScript (4) 10 JavaScript (5) 11 CGI の利用 12 総合課題 (1) 13 総合課題 (2) 14 総合課題 (2) 15 鑑賞・報告会 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点 (課題の途中経過を含む) で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。</p>	

03年度以降	経済原論 a	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。春学期のミクロ経済学では主に家計と企業の意思決定と、市場の機能について説明する予定である。</p> <p>講義目的 日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではミクロ経済学を学習するが、消費者（家計）や生産者（企業）がどのようなことを考えながら行動しているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ミクロ経済学とは何か 2. 市場機能の働き① 3. 市場機能の働き② 4. 数学的予備知識の準備 5. 消費者の行動理論① 6. 消費者の行動理論② 7. 消費者の行動理論③ 8. 生産者の行動理論① 9. 生産者の行動理論② 10. 生産者の行動理論③ 11. 市場均衡と資源配分 12. 市場の失敗 13. 政府による市場介入① 14. 政府による市場介入② 15. 試験前まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に指定しない。参考文献としてスティグリッツ『ミクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。</p>	

03年度以降	経済原論 b	担当者	未定（掲示で確認）
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義概要 本講義は経済学をより深く学びたい学生を対象にした授業である。春学期でミクロ経済学に相当する内容を、秋学期でマクロ経済学に相当する内容を解説する。秋学期のマクロ経済学では主に日本経済の概要とマクロ経済モデルに基づいた財政金融政策について説明する予定である。</p> <p>講義目的 日常の経済活動をよりよく理解するためには経済学の知識が不可欠である。この講義ではマクロ経済学を学習するが、日本のマクロ経済の実態や、経済がどのような政策によって運営されているかを学習することを通して、経済をより深く理解できるようになることが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. マクロ経済学とは何か 2. ストック変数とフロー変数 3. GDP の概念 4. 経済成長と寄与度 5. 消費と貯蓄 6. 投資 7. GDP の決定 8. 財市場分析 9. 貨幣需要 10. 貨幣供給 11. 政府の役割と財政金融政策① 12. 政府の役割と財政金融政策② 13. 総需要と総供給 14. インフレーションとデフレーション 15. 試験前まとめ 	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキストは特に指定しない。参考文献として伊藤元重『マクロ経済学』をあげておく。必要があれば、授業中に適宜紹介する。</p>		<p>定期試験の成績によって評価する。受講人数が少ない場合、小テストを行うこともある。</p>	

シラバス フランス語学科

2012年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1

電 話 048-946-1656



DOKKYO UNIVERSITY

学 科	学年	氏 名
学科	年	